

平成 29 年度
全国学力・学習状況調査の結果について（概要）

千葉市教育委員会

千葉市の児童生徒の調査結果について公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは学力の一部であり、各学校の教育活動を多角的に評価・分析した結果と合わせて、学校教育活動の改善に努めてまいります。

1 調査の概要

- (1) 調査実施日 平成 29 年 4 月 18 日（火）
- (2) 調査対象 小学校 6 年生、中学校 3 年生
- (3) 調査内容 国語 A 問題（主として「知識」）、B 問題（主として「活用」）
 算数・数学 A 問題（主として「知識」）、B 問題（主として「活用」）
 質問紙調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）

2 教科別結果概要

（平成 29 年度と悉皆調査実施年度との比較）

（1）全国・千葉県・大都市の平均正答率（%）と千葉市全体の結果（ここでの全国は、公立のみを示す）

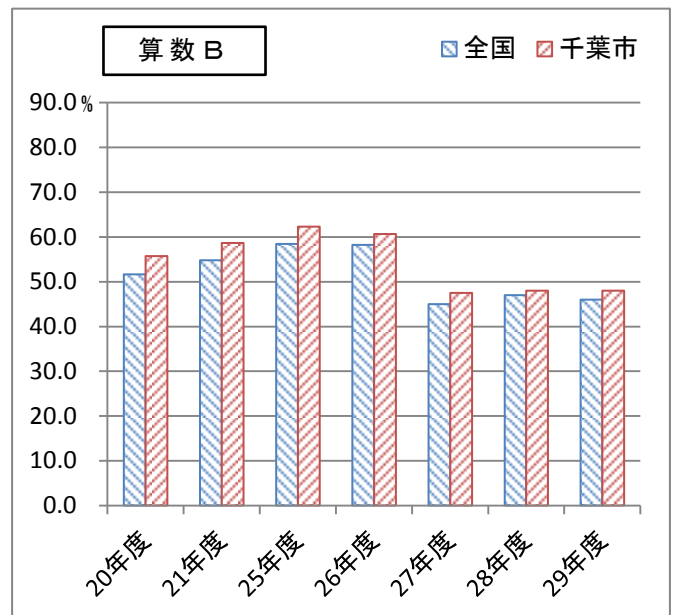
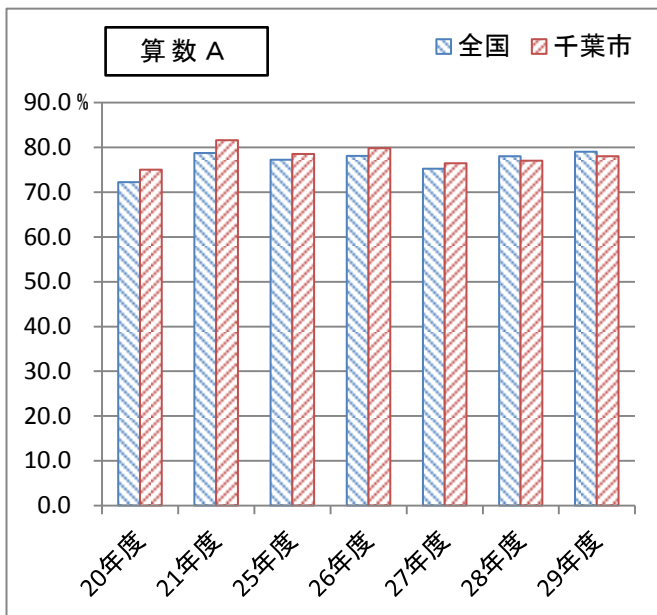
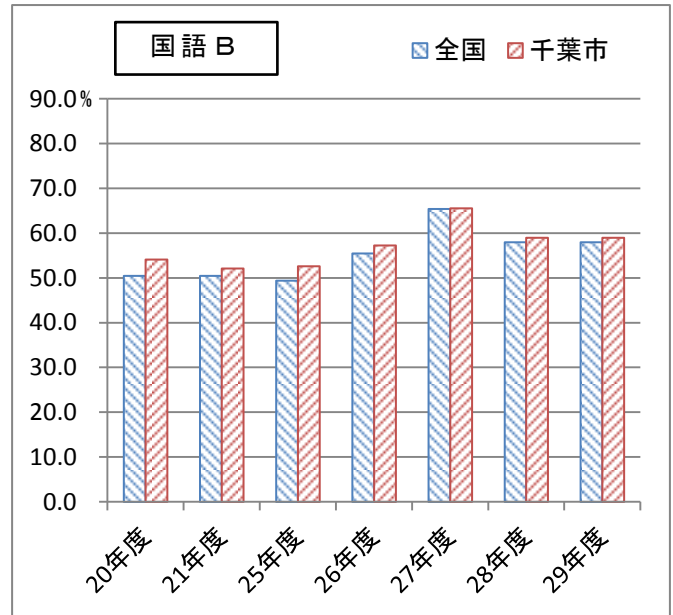
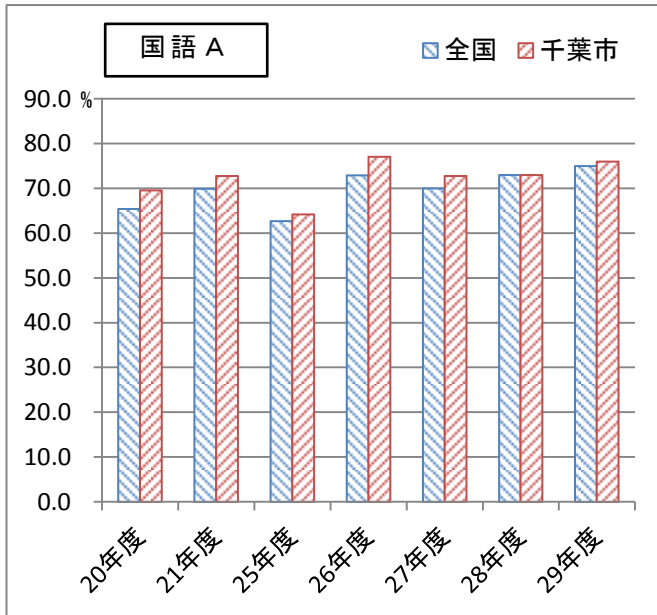
【資料 1】問題別平均正答率一覧（%）[全国・千葉県・大都市・千葉市] <平成 20～29 年度>

		「知識」に関するA問題					「活用」に関するB問題					
		全国平均正答率	千葉県平均正答率	※大都市平均正答率	千葉市平均正答率	全国平均との比較	全国平均正答率	千葉県平均正答率	※大都市平均正答率	千葉市平均正答率	全国平均との比較	
小学校	国語	平成29年度	75	75	75	76	1	58	57	58	59	1
		平成28年度	73	73	73	73	0	58	58	59	59	1
		平成27年度	70.0	71.5	70.3	72.8	2.8	65.4	64.5	65.9	65.6	0.2
		平成26年度	72.9	75.8	73.3	77.1	4.2	55.5	55.5	56.3	57.3	1.8
		平成25年度	62.7	61.9	63.4	64.2	1.5	49.4	50.1	50.9	52.6	3.2
		平成21年度	69.9	71.0	70.5	72.8	2.9	50.5	51.3	52.1	52.1	1.6
		平成20年度	65.4	66.7	66.5	69.6	4.2	50.5	51.4	52.1	54.1	3.6
	算数	平成29年度	79	77	79	78	-1	46	46	47	48	2
		平成28年度	78	77	78	77	-1	47	47	48	48	1
		平成27年度	75.2	74.7	75.7	76.4	1.2	45.0	45.1	46.4	47.5	2.5
		平成26年度	78.1	78.2	78.3	79.8	1.7	58.2	58.8	59.6	60.6	2.4
		平成25年度	77.2	77.1	77.5	78.5	1.3	58.4	59.4	59.8	62.3	3.9
		平成21年度	78.7	79.8	79.3	81.6	2.9	54.8	56.3	56.7	58.6	3.8
		平成20年度	72.2	72.8	72.8	75.0	2.8	51.6	53.2	53.4	55.7	4.1
中学校	国語	平成29年度	77	76	78	77	0	72	72	73	72	0
		平成28年度	76	76	76	77	1	67	67	67	68	1
		平成27年度	75.8	76.0	76.4	77.6	1.8	65.8	65.7	66.3	67.2	1.4
		平成26年度	79.4	79.8	79.5	80.7	1.3	51.0	51.7	51.5	53.0	2.0
		平成25年度	76.4	76.2	76.5	77.7	1.3	67.4	68.1	68.0	70.7	3.3
		平成21年度	77.0	76.8	76.7	78.5	1.5	74.5	74.6	73.9	76.7	2.2
		平成20年度	73.8	72.8	73.6	74.3	0.5	60.8	61.8	61.3	63.2	2.4
	数学	平成29年度	65	63	65	64	-1	48	47	49	49	1
		平成28年度	62	60	63	62	0	44	43	45	45	1
		平成27年度	64.4	63.4	65.3	65.5	1.1	41.6	41.6	43.0	44.9	3.3
		平成26年度	67.4	66.7	67.7	68.3	0.9	59.8	60.1	60.9	61.6	1.8
		平成25年度	63.7	63.2	64.2	65.7	2.0	41.5	41.5	42.5	45.0	3.5
		平成21年度	62.7	61.6	63.1	64.1	1.4	56.9	56.7	57.3	59.8	2.9
		平成20年度	63.1	61.7	63.5	63.4	0.3	49.2	49.1	49.6	51.3	2.1

※平成28年度より平均正答率は整数値で公表
 ※「大都市」とは政令指定都市と東京23区。なお、平成29年度の値は政令指定都市のみの平均正答率の平均値。
 ※平成22・24年度は抽出校の調査のため経年変化には加えていない(平成23年度は東日本大震災のため未実施)

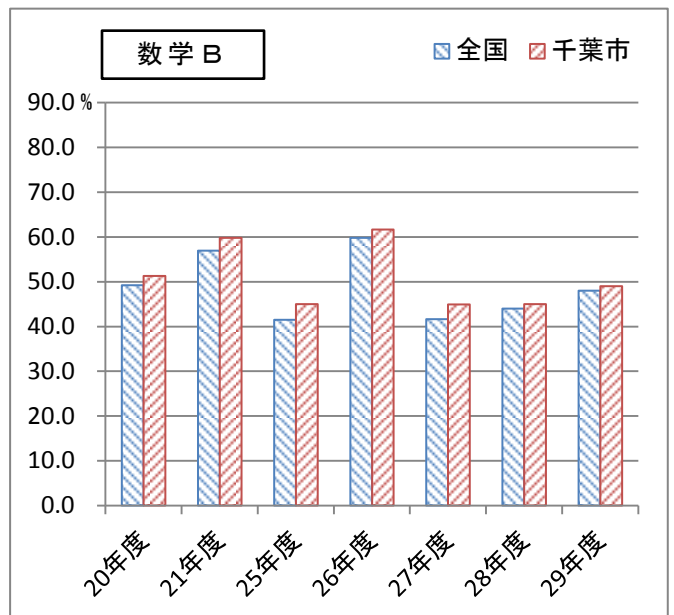
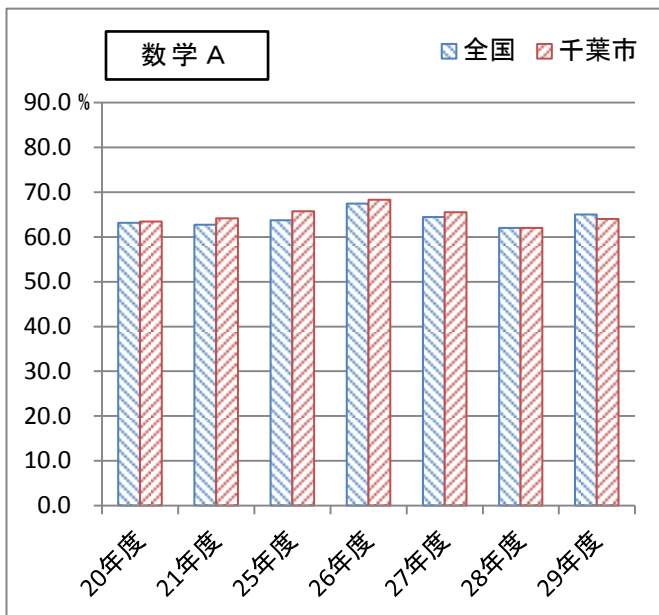
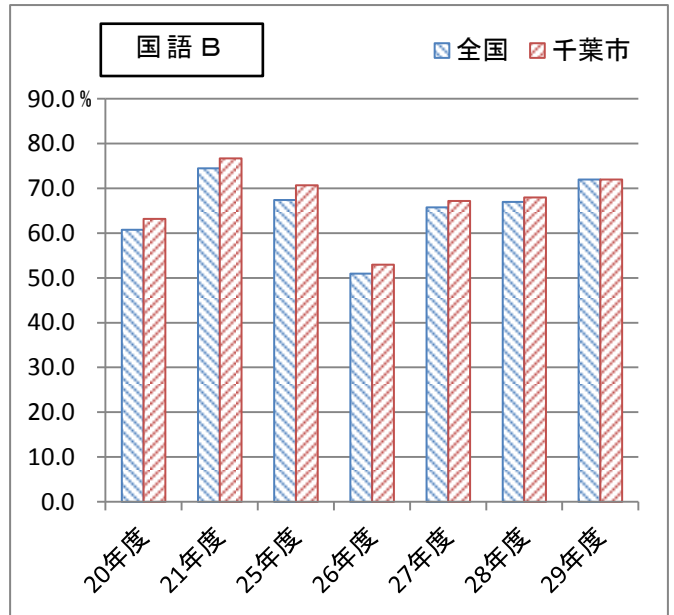
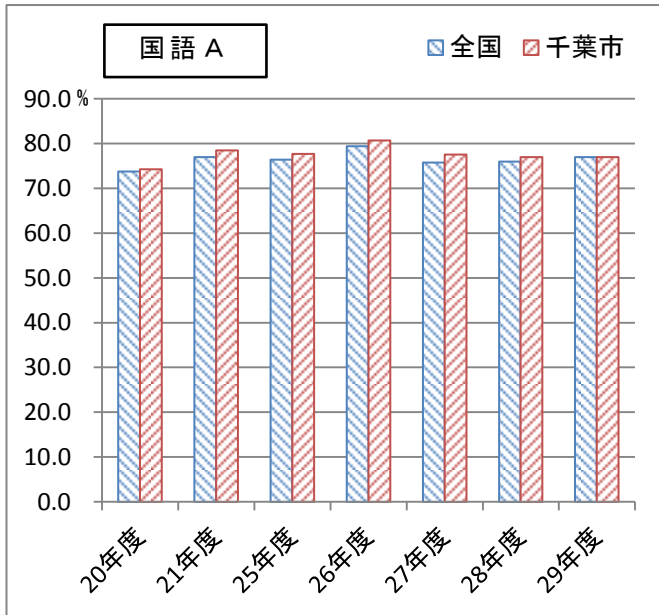
【資料2】教科別経年比較グラフ [全国・千葉市] <平成20～29年度>

ア 小学校6年生（横軸：調査実施年度 縦軸：平均正答率）



・ 経年変化の様子を全国の平均正答率と比較すると、国語のA・B問題及び算数のB問題は概ね良好である。算数のA問題は昨年度、今年度と1ポイント下回っている。

イ 中学校 3 年生（横軸：調査実施年度 縦軸：平均正答率）

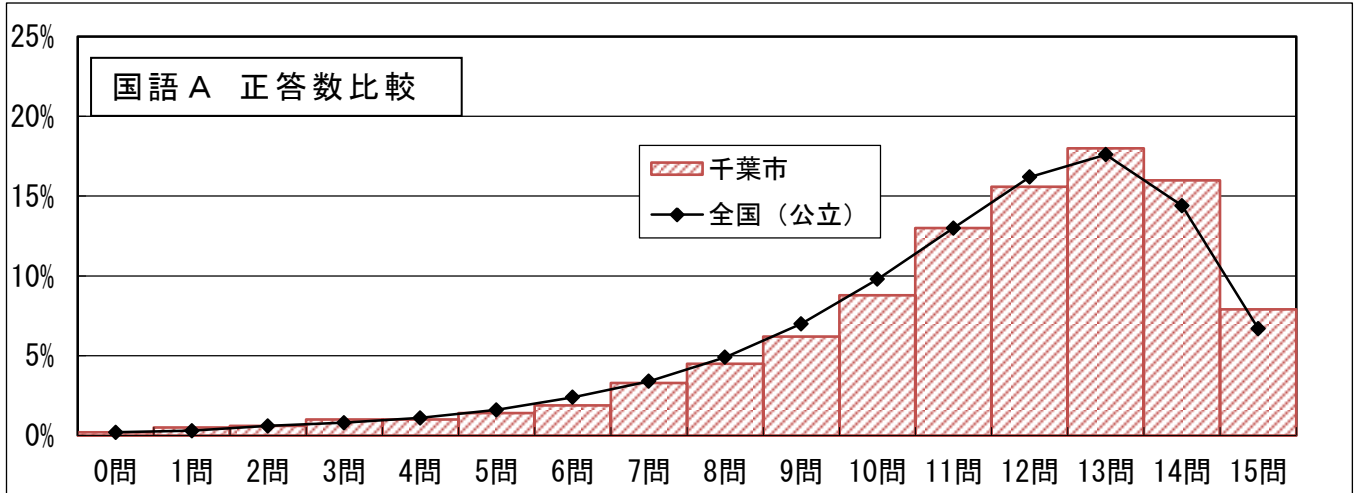


・ 経年変化の様子を全国の平均正答率と比較すると、国語の A・B 問題は、上回っていたものが同等となり、数学 A 問題は、昨年度より下降傾向にある。数学 B 問題については、概ね良好である。

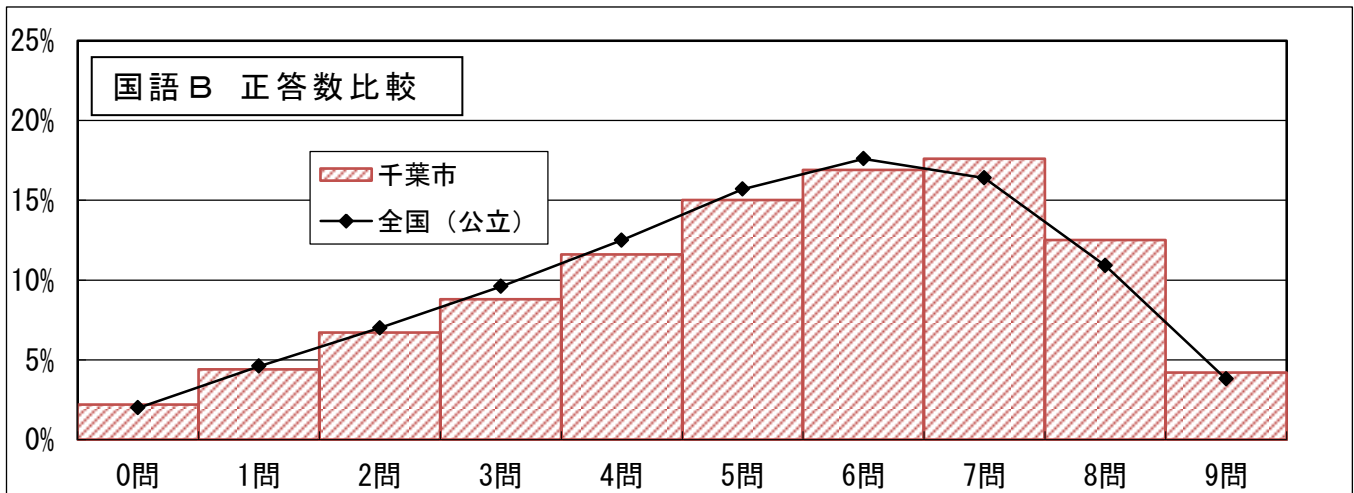
○ 平成 20 年度からの悉皆調査 7 回の経年比較をすると、小中学校ともに年度や問題の種別に差異はあるものの、全体的な傾向として全国の平均正答率との差は縮まりつつある。

(2) 正答数の分布（全国との比較）

【資料3】正答数分布（横軸：正答数、縦軸：人数の割合）[全国・千葉市] <平成29年度>
ア 小学校6年生国語



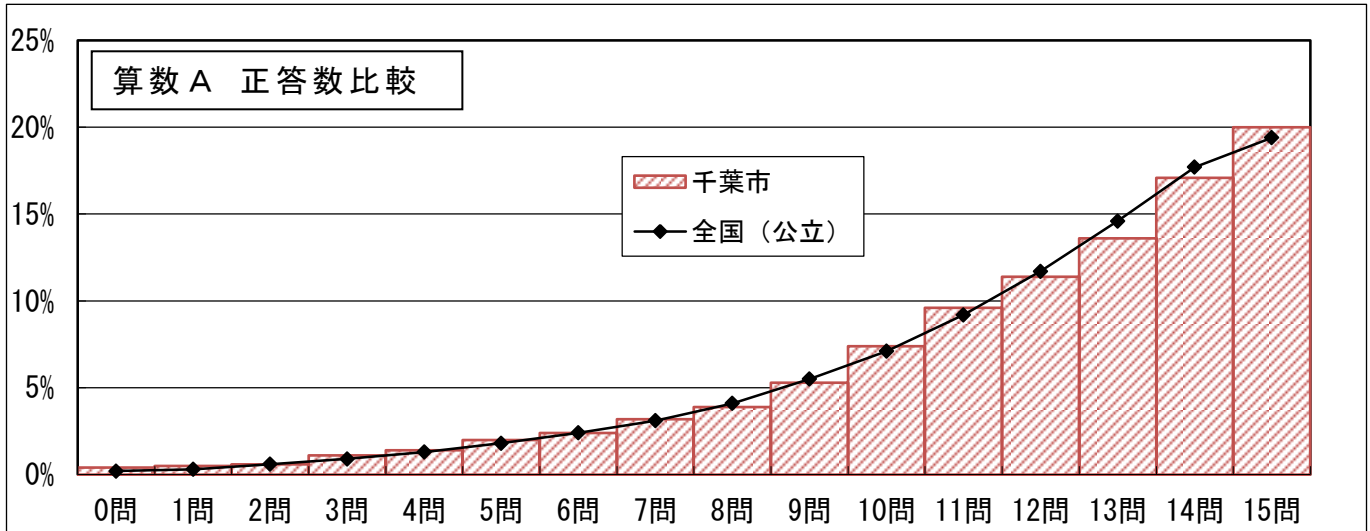
	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉市	11.4 問 ／15 問	76%	12.0	2.8
全国 (公立)	11.2 問 ／15 問	75%	12.0	2.8



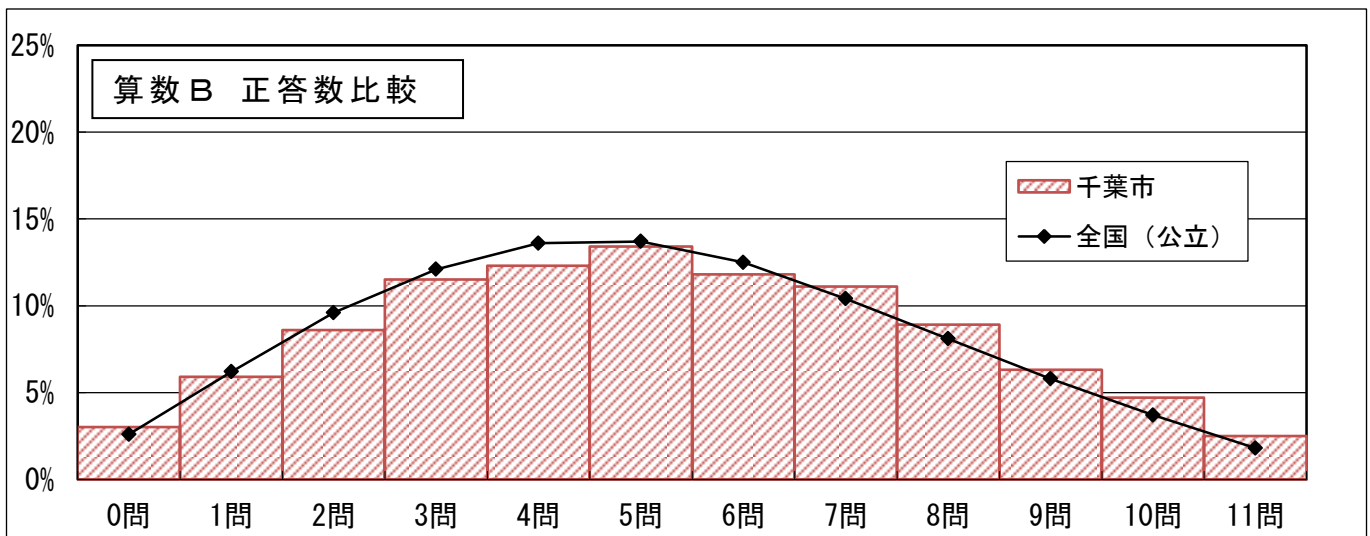
	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉市	5.3 問 ／9 問	59%	6.0	2.2
全国 (公立)	5.2 問 ／9 問	58%	5.0	2.2

- ・ A問題では、全国より平均正答数は0.2問、平均正答率は1ポイント高い。全国と同様に正答数の多い児童の割合が右寄りに山があるグラフになっている。千葉市と全国を比較すると、正答数が13問以上の層の割合が全国に比べてやや高くなっている。今後は0～5問の層への学習指導を見直し、6～10問の層に引き上げを図ることが課題である。
- ・ B問題では、全国より平均正答数は0.1問、平均正答率は1ポイント高い。正答数の分布は、全国と同様に中間層の児童の割合が高いなだらかな山形となっている。千葉市と全国を比較すると、正答数が6問以下の層の割合に比べ、7問以上の層の割合がやや高く、平均正答率を上げている。平均正答率を中学校と比較すると、下位層の児童の割合が高く、この層への学習指導の見直しが必要である。

イ 小学校 6 年生算数



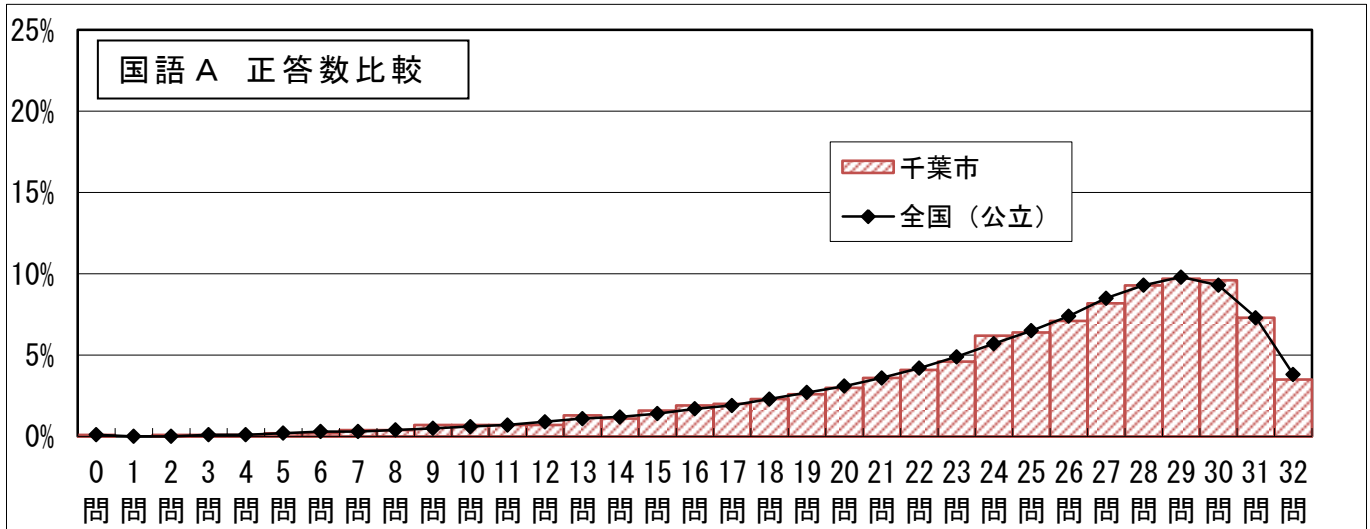
	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉市	11.7 問 ／15 問	78%	13.0	3.2
全国 (公立)	11.8 問 ／15 問	79%	13.0	3.1



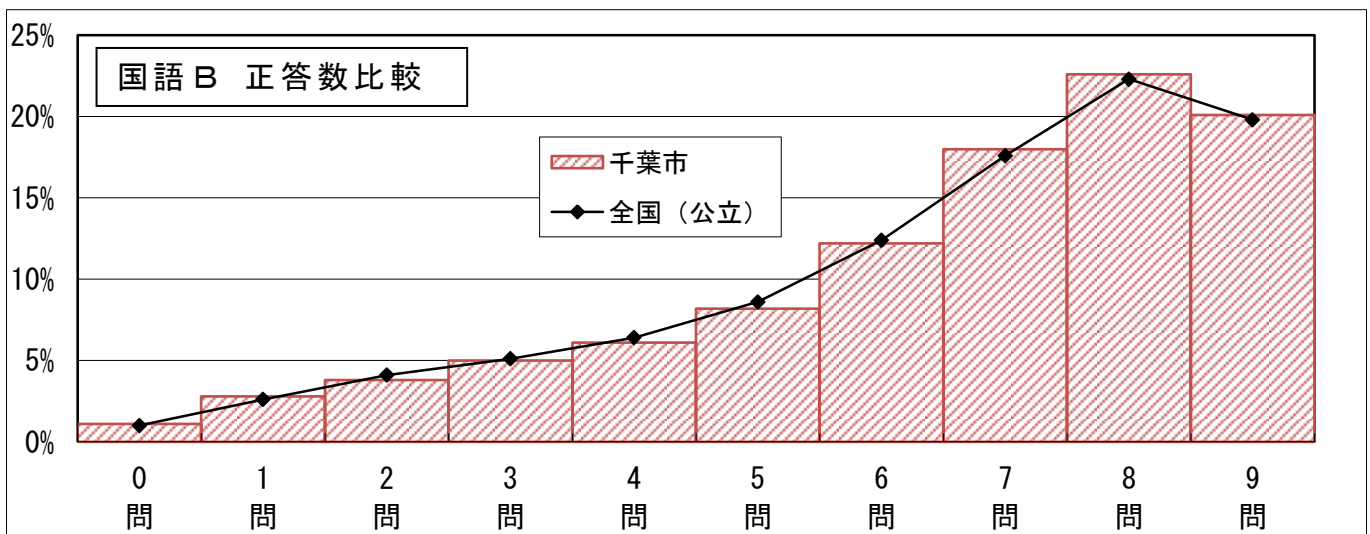
	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉市	5.3 問 ／11 問	48%	5.0	2.7
全国 (公立)	5.1 問 ／11 問	46%	5.0	2.6

- ・ A 問題では、平均正答数は 0.1 問、平均正答率は 1 ポイント全国より低い。正答数の分布は、全国と同様に右上がりのグラフとなっている。正答数が 7 問以下の層の割合が、全国に比較してやや高くなっており、この層の改善を図ることが課題である。
- ・ B 問題では、平均正答数は 0.2 問、平均正答率は 2 ポイント全国より高い。正答数の分布は、全国とほぼ同じ中間層の児童の割合が高いなだらかな山形となっている。正答数の最頻値である正答数 5 問のピークを右寄りに改善することが課題である。中学校と比較すると下位層の児童の割合が高く、この層への学習指導の見直しが必要である。

ウ 中学校 3 年生国語



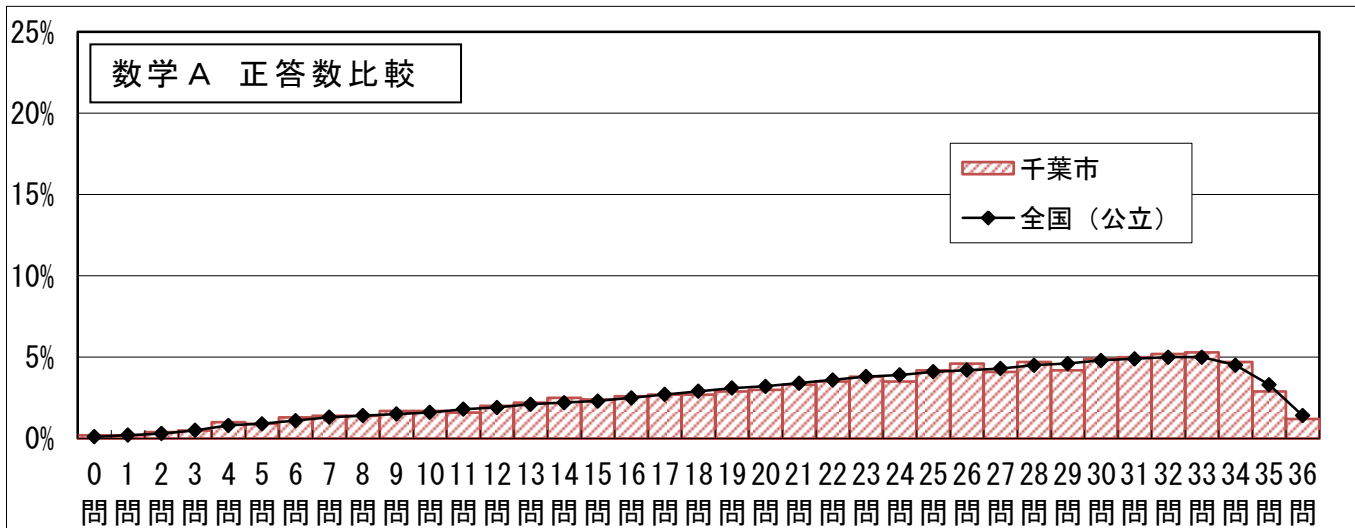
	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉市	24.7 問 ／32 問	77%	26.0	5.8
全国 (公立)	24.8 問 ／32 問	77%	26.0	5.7



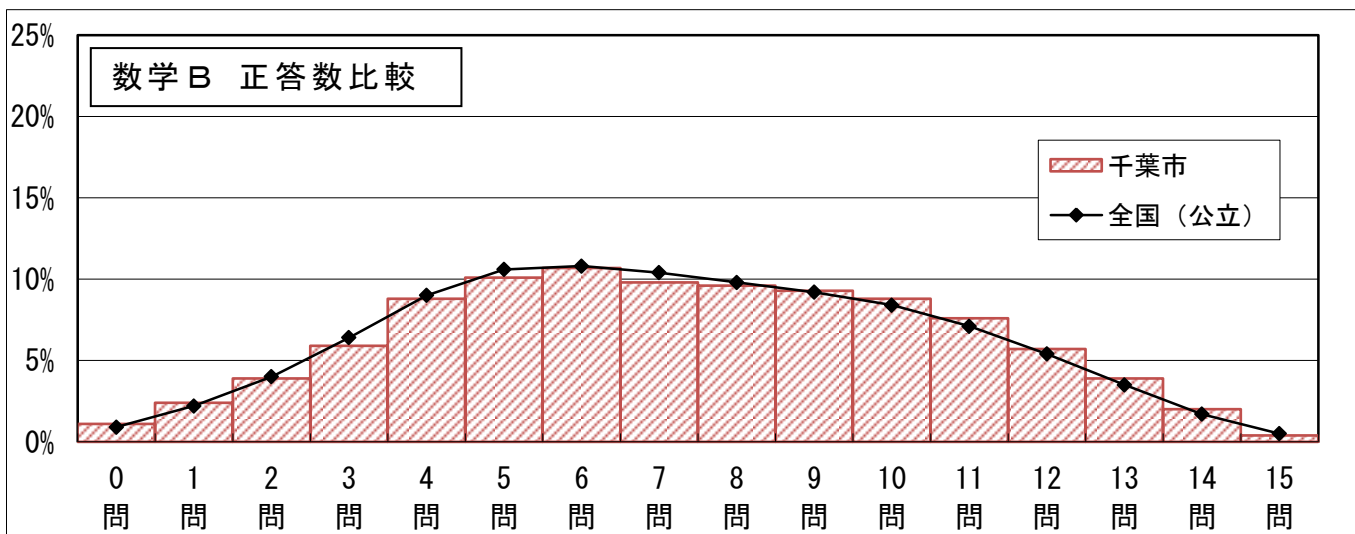
	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉市	6.5 問 ／9 問	72%	7.0	2.3
全国 (公立)	6.5 問 ／9 問	72%	7.0	2.3

- ・ A 問題では、全国より平均正答数は 0.1 問低く、平均正答率は全国と同程度である。正答数の分布は、全国とほぼ同じである。
- ・ B 問題では、平均正答数、平均正答率ともに全国と同程度である。正答数の分布は、千葉市は全国と同様、右寄りに山があるグラフになっている。
- ・ 平成 25 年度に A 問題は 1.3 ポイント、B 問題は 3.3 ポイントあった全国の平均正答率との差が、少しずつ縮まり今年度は差がなくなった。

エ 中学校 3 年生 数学



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉市	23.1 問 ／36 問	64%	25.0	8.6
全国 (公立)	23.3 問 ／36 問	65%	25.0	8.5



	平均 正答数	平均 正答率	中央値	標準 偏差
千葉市	7.3 問 ／15 問	49%	7.0	3.3
全国 (公立)	7.2 問 ／15 問	48%	7.0	3.3

- ・ A 問題では、全国より平均正答数は 0.2 問、平均正答率は 1 ポイント低い。正答数の分布は、全国と同様に正答数の多い生徒の割合が右寄りに山があるが、緩やかであることから正答数に大きな幅があることが分かる。
- ・ B 問題では、全国より平均正答数は 0.1 問、平均正答率は 1 ポイント高い。正答数の分布は、千葉市は全国と同様のやや左に寄ったなだらかな山形となっている。正答数の最頻値である正答数 6 問のピークを右寄りに改善することが課題である。

(3) 市内学校 A・B 問題平均正答率の相関関係＜平成 28・29 年度の比較＞

【資料 4】市内学校 A・B 問題平均正答率の相関分布図

[数値は各学校正答率と全国平均正答率との差を示している]

第 2 群 A 問題は全国平均正答率を下回ったが、B 問題では全国平均正答率を上回った学校	第 1 群 A・B 問題ともに全国平均正答率を上回った学校
第 4 群 A・B 問題ともに全国平均正答率を下回った学校	第 3 群 A 問題は全国平均正答率を上回ったが、B 問題では全国平均正答率を下回った学校

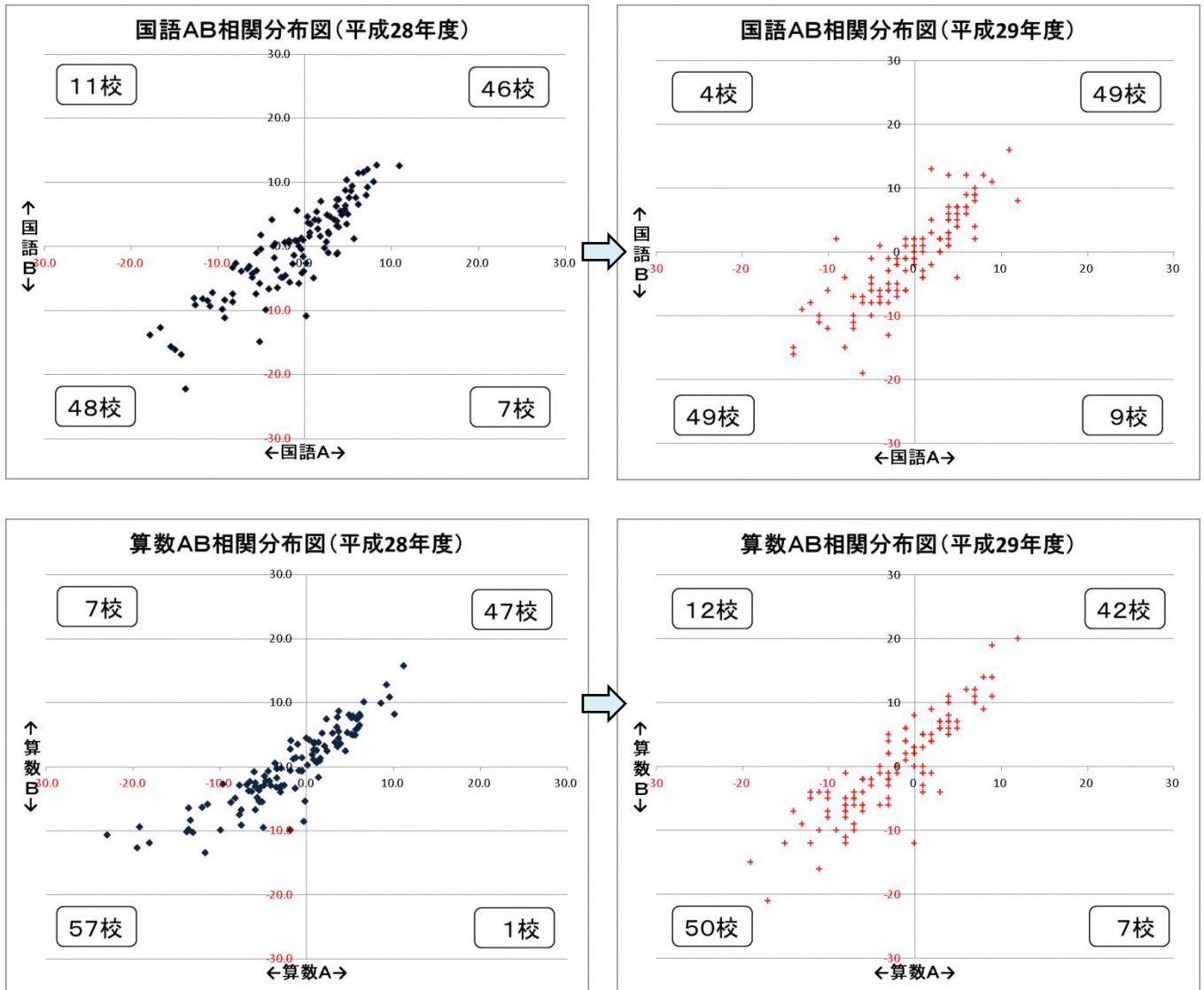
学校で分析する際のポイント

- A 問題と B 問題のバランスに着目する。
- 千葉市内の学校の散らばり具合と自校の位置を比較する。これにより、自校の児童生徒には、A 問題（基礎的な知識）に課題があるのか、B 問題（活用力）に課題があるのかを見ることができる。

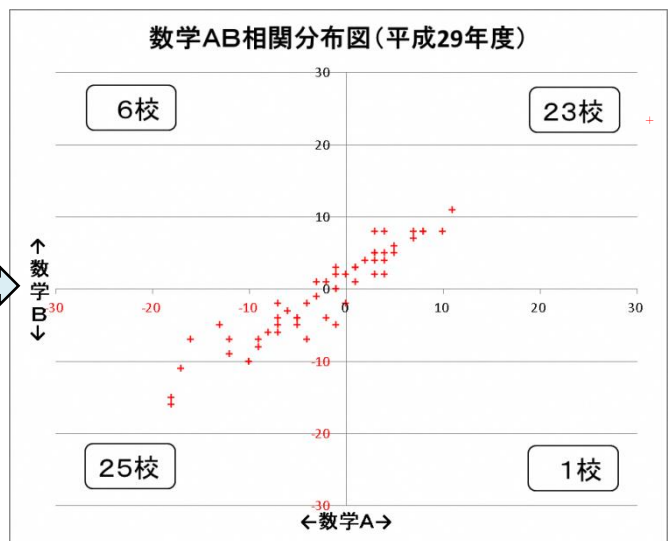
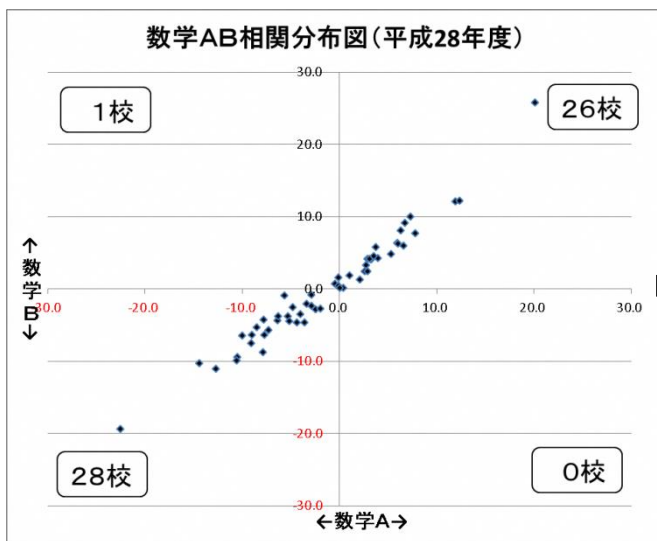
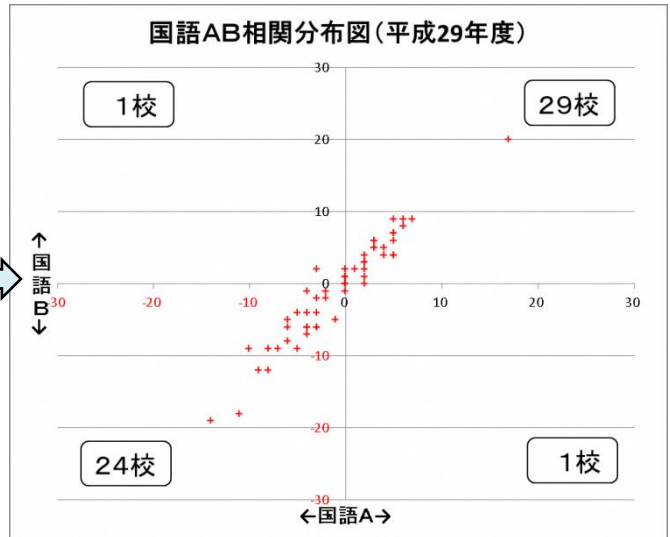
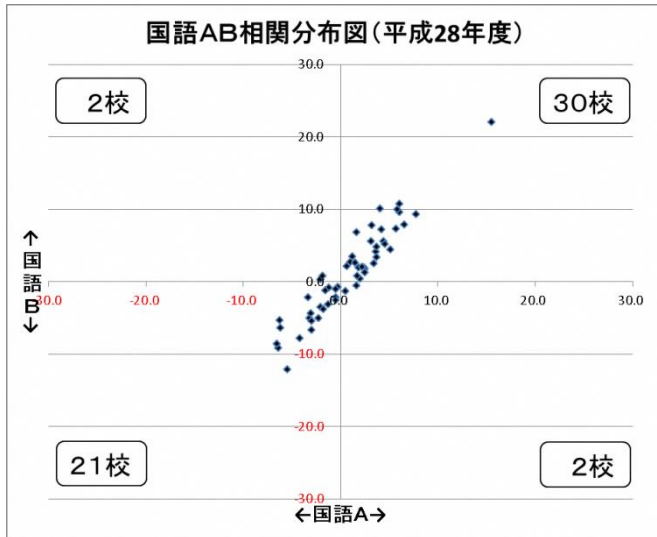
※調査数：（小学校）28 年度 112 校、29 年度 111 校（中学校）28・29 年度 55 校

※相関分布図については、平成 29 年度は正数値公表により正数値の分布図となっている。

ア 小学校



イ 中学校



① 小学校

- ・各学校におけるA・B問題の平均正答率の分布から、基礎的な知識の定着と活用力には相関関係が見られる。
- ・国語は、平成29年度と平成28年度を比較すると、第2群（A問題は全国平均正答率を下回るが、B問題は全国平均正答率を上回る）の学校が減り、第3群（A問題は全国平均正答率を上回るが、B問題は全国平均正答率を下回る）の学校が若干増えた。A問題よりB問題に課題がある学校が増えたと考えられる。算数は、平成29年度と平成28年度を比較すると、第1群（A・B問題ともに全国平均正答率を上回る）の学校と第4群（A・B問題ともに全国平均正答率を下回る）の学校が減っており、第2群と第3群が増えている。A問題・B問題のどちらかに課題がある学校が増えたことが分かる。

② 中学校

- ・小学校同様、各学校における平均正答率の分布から、基礎的な知識の定着と活用力には相関関係が見られる。
- ・国語は、平成28年度は座標の中心近くに学校が集まっているが、平成29年度は点の分布が広がっている。学校間の差が生じてきたことがうかがえる。数学は、国語に比べると横に長く広がっており、学校により、基礎的な知識の定着に差があることが推測される。

○小・中学校ともに、A問題とB問題の平均正答率の分布には相関関係が見られる。基礎的な知識の定着と活用力を育成していくためには、各学校において、自校の分析を丁寧に行い、A（基礎的な知識の定着）の改善から引き続き取り組むのか、B（活用力を磨く）の改善から取り組むのかについて、学校の実態に合わせて対策を考えることが必要である。

(4) 全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移＜平成 28・29 年度の比較＞

【資料 5】全国平均正答率との差異から見る各学校の経年推移表

出題される問題が毎年異なり、調査母体の児童生徒が異なること、測定できるのは学力の特定の一部であることから、今後数年の推移を見守っていく必要がある。

平成 28 年度の全国と各学校の平均正答率の差と平成 29 年度の全国と各学校の平均正答率の差を比較

推移表記 ◀: 全国平均との差が大きく向上 ▶: 全国平均との差が向上 空欄: 全国平均との差に大きな変化がない ↓: 全国平均との差が低下

ア 小学校（条件；平成 28 年度または平成 29 年度の該当学年の調査実施児童数が 40 人以下の学校については、調査母体による影響が顕著となり、経年比較できないため公表しない。）

学校名	国語A	国語B	算数A	算数B
新宿	▶	▶		▶
本町				
寒川		▶		
登戸	▶	▶	▶	▶
院内	▶	▶		
蘇我	▶		▶	▶
都	▶	▶		▶
都賀		▶	▶	
検見川				▶
稲毛				
園生	▶	▶	▶	
若松				▶
大森				▶
稲丘				
花園	▶		▶	▶
横橋	▶	▶		
幕張		▶	▶	▶
長作	▶	▶		
生浜	▶		▶	▶
誉田		▶		
轟町				
鶴沢				▶
平山			▶	▶
松ヶ丘	▶	▶		▶
宮崎	▶			
緑町				
川戸				▶
山王	▶			▶
小中台				
小倉		▶	▶	▶
千草台			▶	
稲毛二	▶		▶	
あやめ台	▶	▶	▶	▶
星久喜			▶	▶
幕張東	▶	▶	▶	▶
土気	▶		▶	▶
桜木	▶	▶	▶	▶
宮野木		▶	▶	▶
生浜西			▶	▶

学校名	国語A	国語B	算数A	算数B
こてはし台				
西小中台	▶	▶	▶	▶
北貝塚				▶
幕張西				
草野	▶	▶	▶	▶
柏台	▶		▶	
千城台東	▶	▶	▶	▶
小中台南				
幸町三		▶		▶
高洲三	▶	▶	▶	▶
千草台東	▶	▶	▶	▶
作新	▶	▶	▶	
みつわ台北		▶		
誉田東	▶	▶	▶	▶
みつわ台南	▶	▶		
幕張南				
都賀の台	▶	▶		
上の台		▶		
磯辺三				
生浜東				
泉谷		▶		
土気南	▶	▶		
西の谷		▶		
小谷		▶		
大椎	▶	▶		▶
有吉	▶	▶		▶
打瀬		▶		▶
金沢				
あずみが丘		▶		▶
扇田				
瑞穂			▶	
海浜打瀬			▶	
おゆみ野南				
美浜打瀬			▶	▶
高洲		▶	▶	▶
真砂東		▶		
真砂西	▶	▶	▶	
磯辺			▶	
幸町	▶	▶	▶	▶

イ 中学校（条件；平成 28 年度または平成 29 年度の該当学年の調査実施生徒数が 80 人以下の学校については、調査母体による影響が顕著となり、経年比較できないため公表しない。）

学校名	国語A	国語B	数学A	数学B
加曽利	▶			
末広	▶	▶	▶	▶
葛城		▶	▶	▶
椿森	▶	▶	▶	▶
緑町				
小中台				
花園			▶	
新宿				
蘇我	▶	▶	▶	▶
幕張				
生浜				
誉田	▶		▶	
轟町			▶	▶
松ヶ丘		▶		
稲毛	▶	▶	▶	▶
千城台西		▶	▶	▶
こてはし台	▶			
さつきが丘	▶	▶		▶
高洲一				
草野	▶	▶	▶	▶
幕張西			▶	▶

学校名	国語A	国語B	数学A	数学B
都賀			▶	▶
千城台南				▶
みつわ台				
緑が丘	▶	▶	▶	▶
天戸	▶	▶	▶	▶
若松			▶	▶
幸町二		▶		
山王	▶			
朝日ヶ丘				
貝塚		▶		
泉谷				▶
幕張本郷				▶
土気南		▶		
打瀬				▶
有吉				
大椎			▶	▶
真砂			▶	
おゆみ野南	▶	▶	▶	▶
磯辺				
花見川		▶	▶	▶

・平成 28 年度と平成 29 年度の全国平均正答率との差に注目すると、小学校 6 年生では、国語 A 問題は上昇している学校が多く見られる。逆に国語 B 問題は低下している学校のほうが多

くなっている。算数A問題は低下している学校が多いが、算数B問題は上昇している学校が多くなっている。中学校3年生では、国語A・B問題ともに低下している学校が多い。数学A・B問題では学校による上下差が目立っている。

【資料6】平均正答率の顕著な向上が見られた学校の取組事例<経年推移の比較から>

ア 顕著な向上が見られた学校からは、以下のような取組が報告されている。

[小学校]

登戸	児童の理解を深めるためのデジタル教科書の活用促進。「学習の決まり」の徹底。しっかりとまとめ、書く力を養う算数・国語でのノート指導。授業の関心・意欲を高める授業の導入の工夫。
蘇我	国語科における「根拠をもとに自分の考えをもち、交流を通して考えを深めることのできる子ども」の育成を目指した授業改善。算数科での少人数指導、朝ドリルにおける個人差に対応した指導（担任外の職員協力）。児童自らが設定した課題に家庭内で取り組む学習活動への家庭の協力依頼（家庭学習の日）。
園生	朝学習における担任以外の教職員による個別指導、今年度より市立千葉高校生の協力を開始。「園生スタンダード」（基礎基本的な教科ノート指導）を活用した各担任の熱意ある指導。少人数指導・学力向上サポーター等によるきめ細やかな支援・指導。児童の自己肯定感を育む道徳研究を通じた道徳教育の充実。
あやめ台	「自力で問題が解けるための手立ての工夫」「基礎・基本の定着のための工夫」を視点にした校内研修。「わかった」「できた」と喜びを感じられるようにするための、子供のやる気を引き出す指導法の工夫。個人差に対応するための少人数指導。
土気	学力向上委員会による目標作成と具現化策を基にした授業改善。学校全体で国語研究に取り組み、全学級で授業展開を実施。学力向上サポーター協力の算数科における少人数指導による個別対応。
桜木	学校全体での国語研究への取組。読書活動の充実による落ち着いた学習態度と読解力の向上。算数科少人数指導を通じた自己肯定感の高まりと学習意欲向上。
千城台東	「東小家庭学習のすすめ」の作成と配付による家庭学習の取組の推奨。各学年統一の家庭学習シートの活用。意欲を高め生活習慣の向上を図る朝マラソン活動の実施。学力差に対応した算数科における少人数指導と個別指導。学級の規範意識を高め、意欲を引き出す学級活動の研究。
大椎	Q-U検査の学級経営活用（落ち着いた学校生活と学習に集中して取り組める環境づくり）。個人差に対応した少人数指導。学習定着を図るための朝学習での復習。

[中学校]

末広	「家庭学習ノート」を活用した家庭での学習習慣の定着・促進（授業の復習、漢字や英単語練習、計算ドリル等）。
稲毛	各教科における基礎・基本の徹底。朝読書の充実を図るための日課時程の工夫。生徒の充実感を大切にされた生活習慣の確立と学校行事に取り組む時間の確保。
千城台西	各教科における基礎・基本の徹底。落ち着いた学習態度や課題提出の徹底など学習習慣の定着に向けた指導。個人差に対応した学習支援（数学科・英語科のT.T指導）。
緑が丘	全教職員による生活習慣の見直しの徹底。朝読書活動の再開。授業の基本の共有（学習のめあての提示や板書の工夫）。個人差に対応した個別指導（数学科少人数指導）。
花見川	学校全体で力を入れている言語活動の充実。学習に集中できる環境整備。基礎力向上に向けた毎日の10分間ドリル学習（国語・数学・英語）。朝読書の推進。分かるまで丁寧に行う個別指導（数学科少人数指導）。

イ 今後の学力向上に向けたその他の取組

- ・児童生徒のつまづきを見取るための細かな誤答分析
- ・個別の支援・指導体制の確立
- ・学習への意欲化を図る工夫
- ・児童生徒に達成感を実感させるためのスモールステップによる授業実践
- ・児童生徒の考えや意見を述べ合える場づくり、環境づくり
- ・家庭と連携した家庭学習の習慣化や規則正しい生活習慣の定着

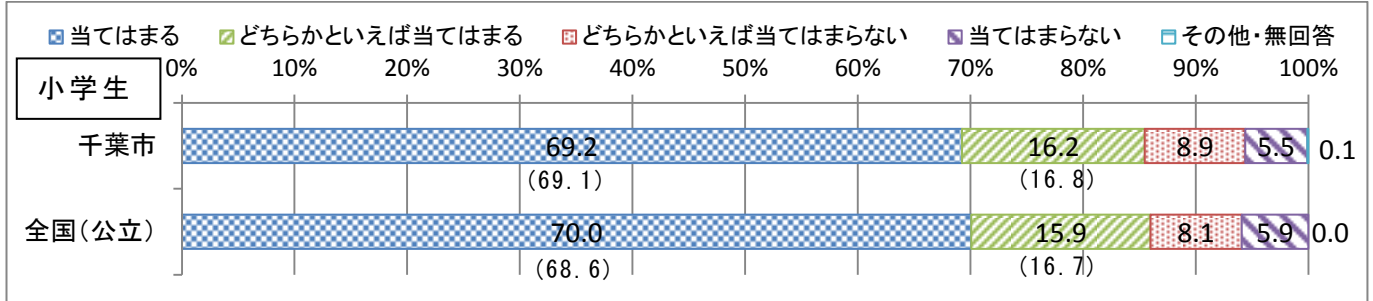
3 質問紙調査結果概要

【資料7】児童生徒質問紙調査より〔千葉市・全国〕＜平成29年度＞

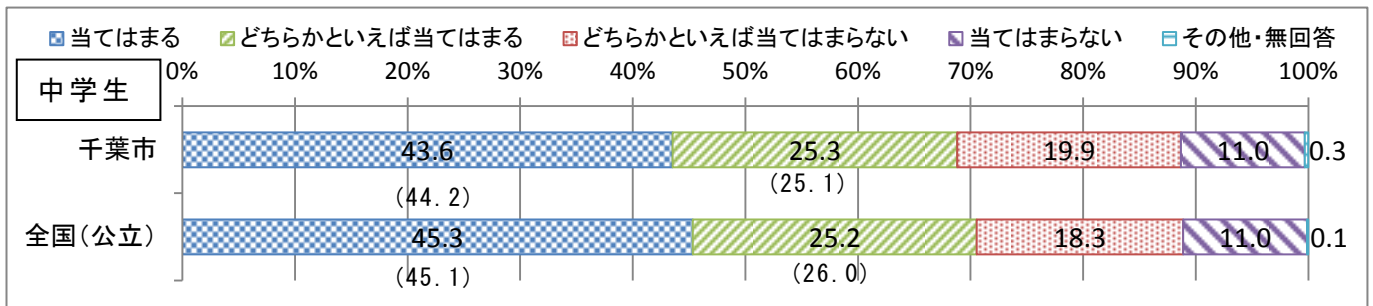
※質問文末の（ ）内の数字は、「児童生徒質問紙調査」の質問番号、帯グラフの（ ）の数字は、平成28年度同質問の回答の割合を示している。

〔将来の夢や希望、外国に対する興味・関心〕

1 将来の夢や希望を持っていますか（小10）（中10）

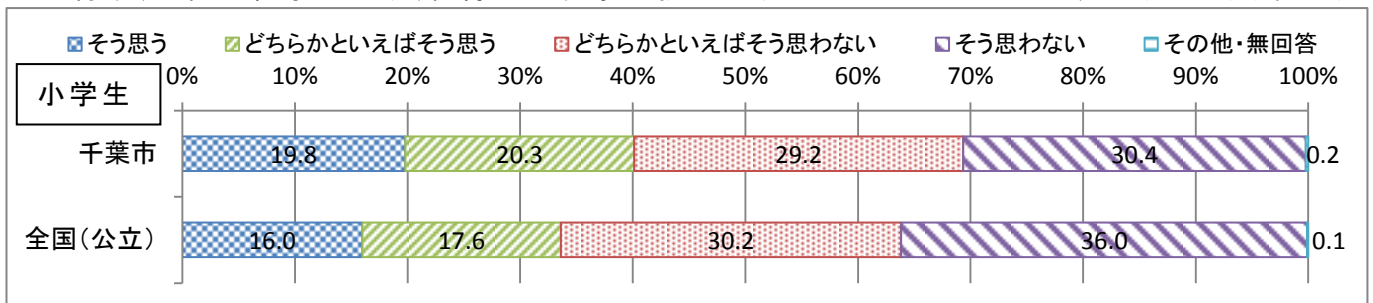


・持っている、どちらかといえば持っている→85.4%（全国より0.5ポイント低い）

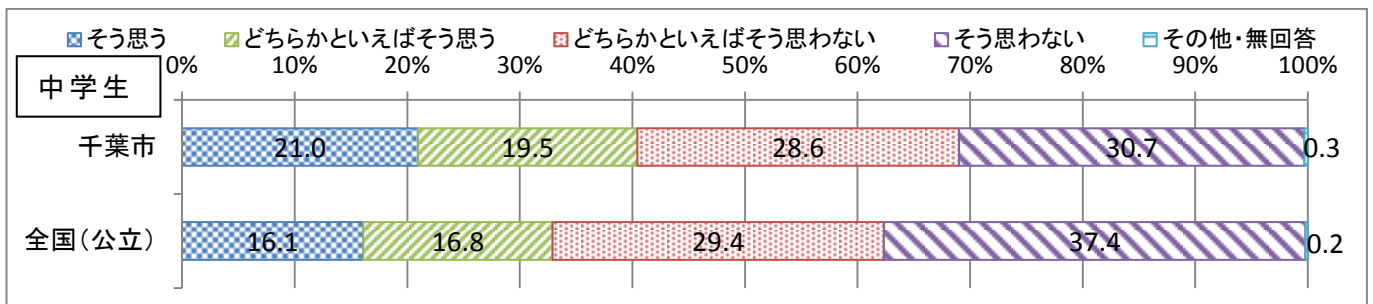


・持っている、どちらかといえば持っている→68.9%（全国より1.6ポイント低い）

2 将来、外国へ留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思いますか（小48）（中50）



・そう思う、どちらかといえばそう思う→40.1%（全国より6.5ポイント高い）

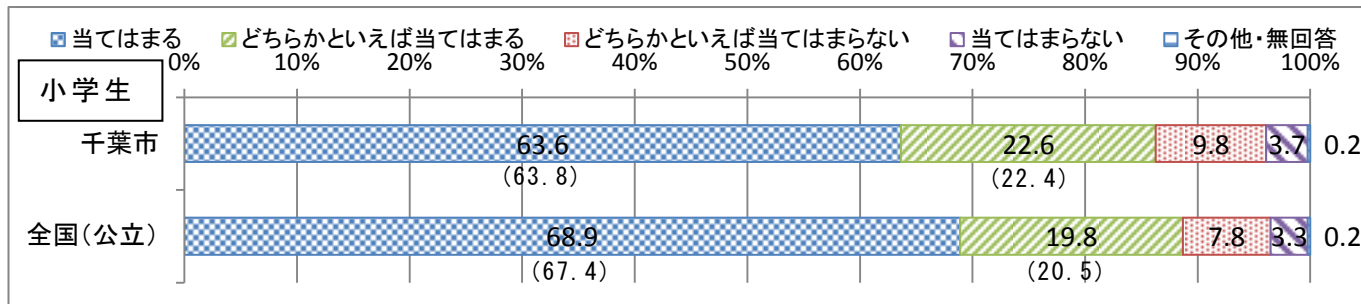


・そう思う、どちらかといえばそう思う→40.5%（全国より7.6ポイント高い）

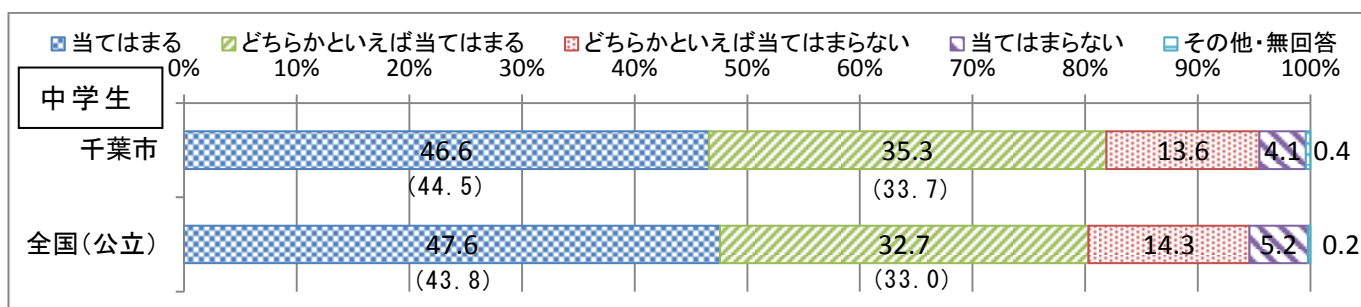
将来の夢や希望を持つことについて肯定的な回答率は、全国と比べてやや低いですが、留学や国際的な仕事に就くことに肯定的な回答をする児童生徒が全国と比べて高い。これは、子供たちが自分の未来を見つめていけるよう「生活科」「総合的な学習の時間」等における取組の成果と考えられる。さらに各教科等の特質に応じた「キャリア教育」の充実に努める必要がある。

〔学び方に関する意識〕

3 5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか（小63）（中65）

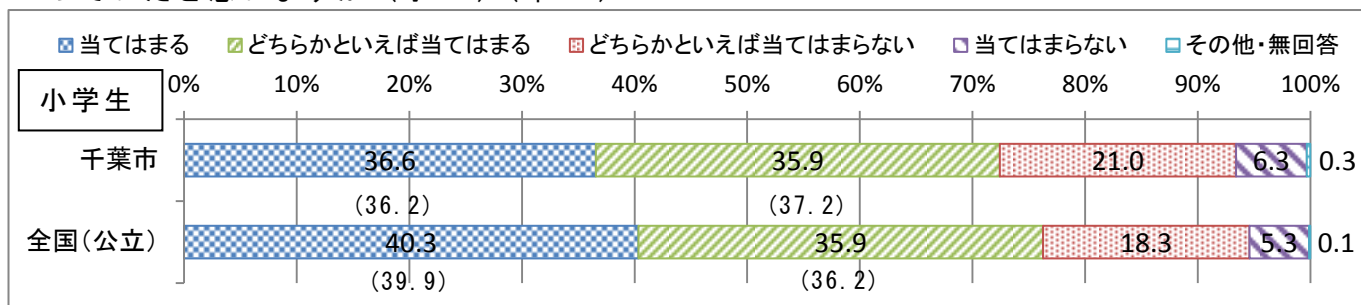


・書いていた、どちらかという書いていた→86.2%（全国より2.5ポイント低い）

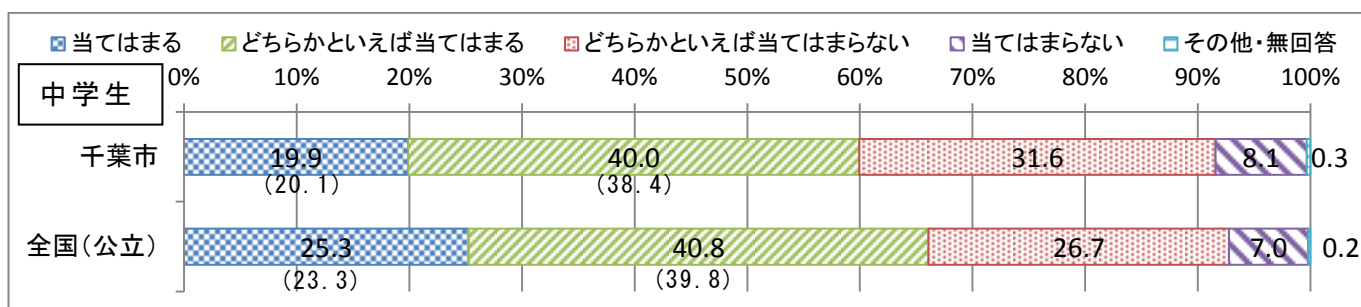


・書いていた、どちらかといえば書いていた→81.9%（全国より1.6ポイント高い）

4 5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思いますか（小62）（中64）

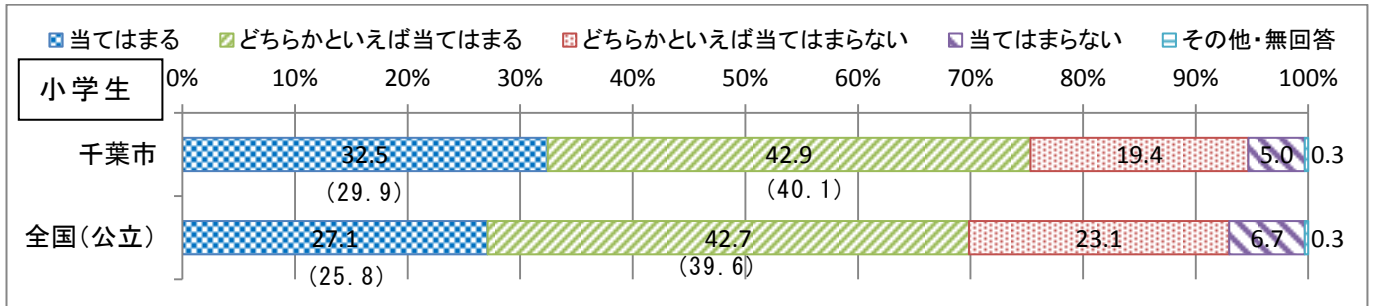


・行っていた、どちらかといえば行っていた→72.5%（全国より3.7ポイント低い）

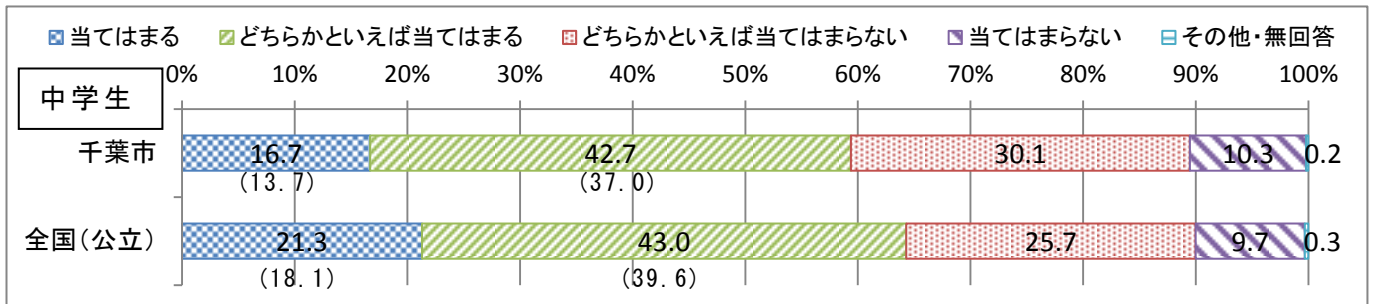


・行っていた、どちらかといえば行っていた→59.9%（全国より6.2ポイント低い）

5 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか（小 54）（中 56）



・取り組んでいる、どちらかというに取り組んでいる→75.4%（全国より5.6ポイント高い）

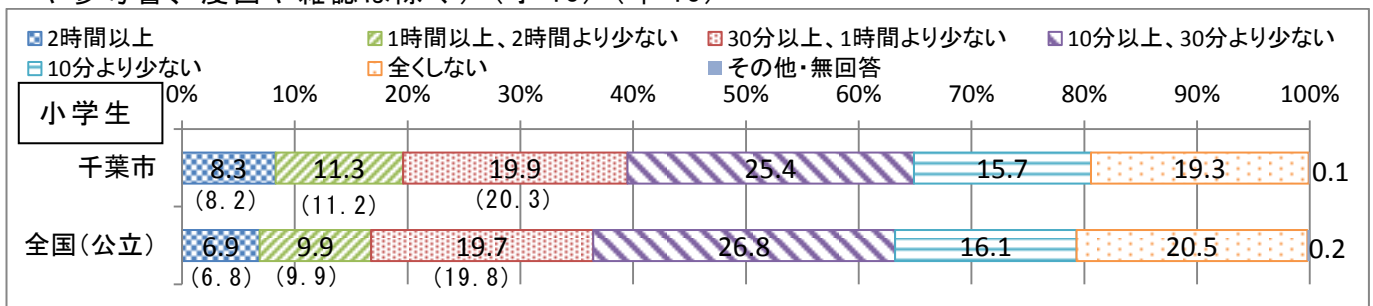


・取り組んでいる、どちらかといえば取り組んでいる→59.4%（全国より4.9ポイント低い）

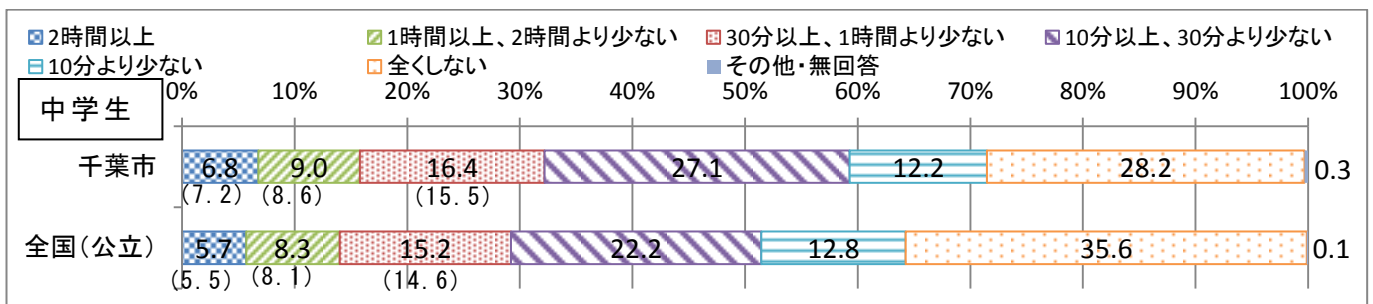
設問3・4で「書いていた」「行っていた」と回答した児童生徒は、全国の割合より低い。授業の導入でしっかりとめあてや課題意識を持たせ、児童生徒が自ら調べたり解決したりして問題解決ができるような授業過程を組んでいく必要がある。さらに、最後に学習を振り返り、自分の学びを評価できるような問題解決型の学習を充実させることが大切である。知識・理解の定着や見方・考え方を働かせて思考・判断・表現する授業を工夫していくことが重要である。「総合的な学習の時間」については、全国と比べ小学生は肯定的回答率が高いが、中学生は低くなっている。課題を立てる、情報を集め整理する、調べたことを発表するなどの学習活動の改善を積極的に進めていく必要がある。

〔言語活動に関する意識〕

6 学校の授業以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）（小 18）（中 18）

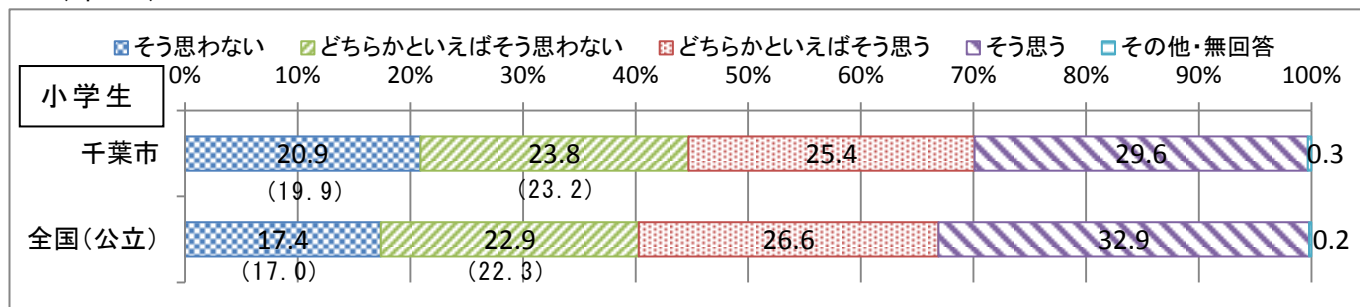


・1日30分以上読書をしている→39.5%（全国より3.0ポイント高い）

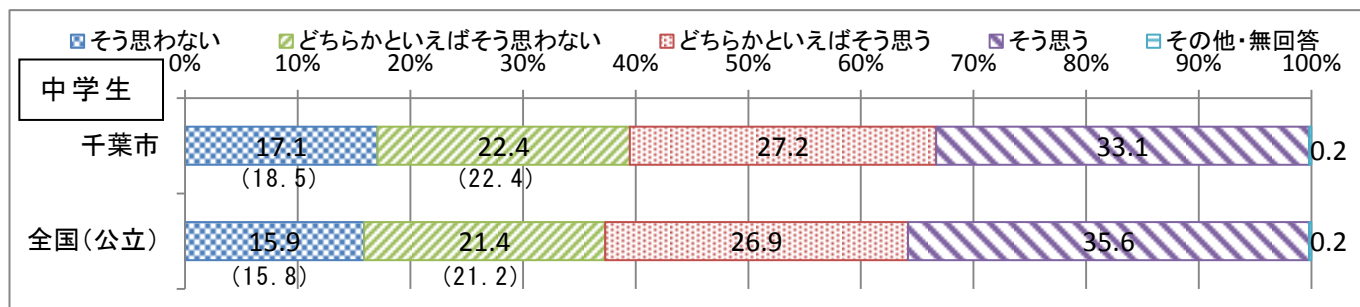


・1日30分以上読書をしている→32.2%（全国より3.0ポイント高い）

7 400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか（小66）
（中68）



・書くことが難しいと思わない、どちらかといえばそう思わない→44.7%（全国より4.4ポイント高い）

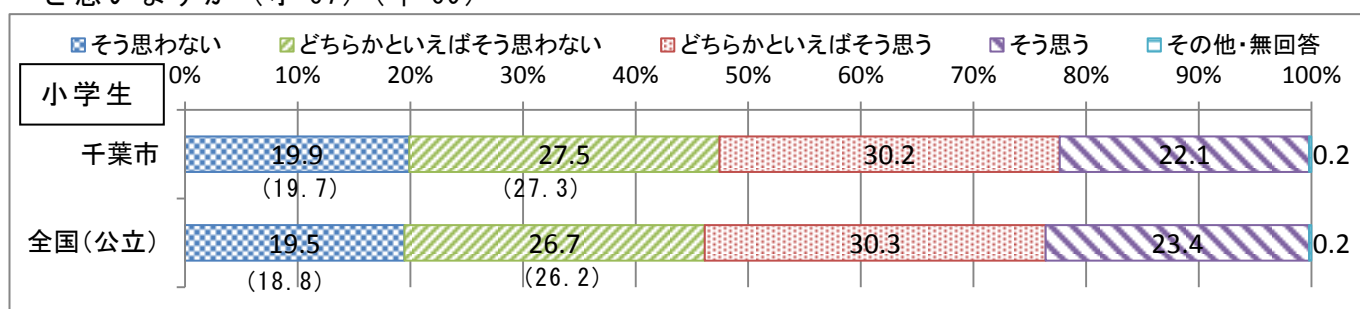


・書くことが難しいと思わない、どちらかといえばそう思わない→39.5%（全国より2.2ポイント高い）

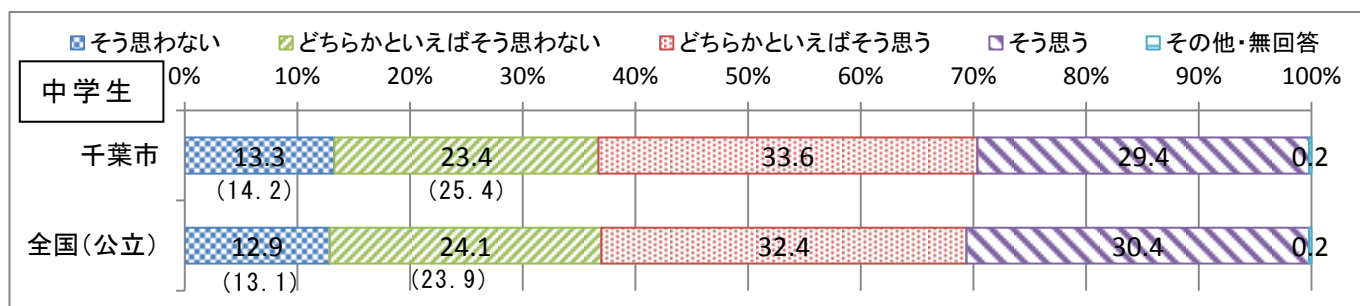
読書をしている時間の割合が全国より高いことが分かる。このことは、読書活動の推進等の成果と考えられる。「書くこと」が難しいととらえている児童生徒の割合は、全国と比べると少ない。しかし、それを難しいと感じている児童生徒は市全体の割合としては半数以上を占めている。読書を通して優れた表現や様々なものの見方・考え方に触れさせ、書くときの参考にさせることで、改善につながると考えられる。読書や書く活動に継続的に取り組ませ、言語能力の育成を図っていくことが大切である。

〔主体的・対話的で深い学びに関する意識〕

8 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか（小67）（中69）

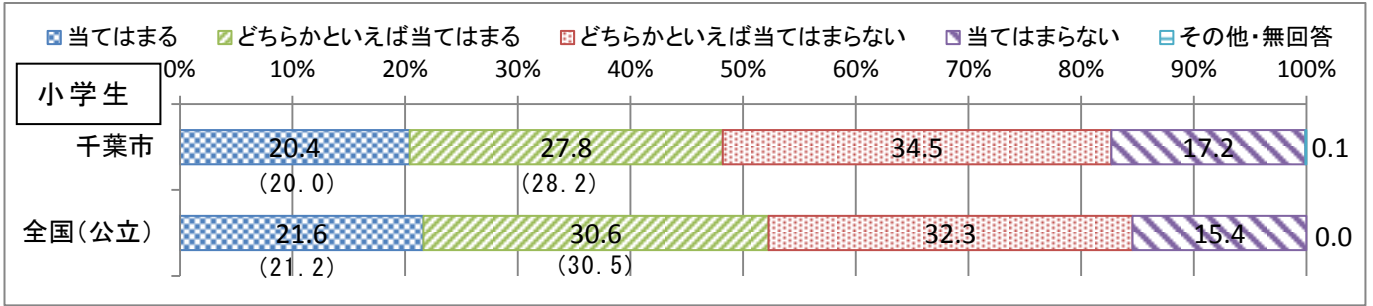


・難しくない、どちらかというとなんか難しくない→47.4%（全国より1.2ポイント高い）

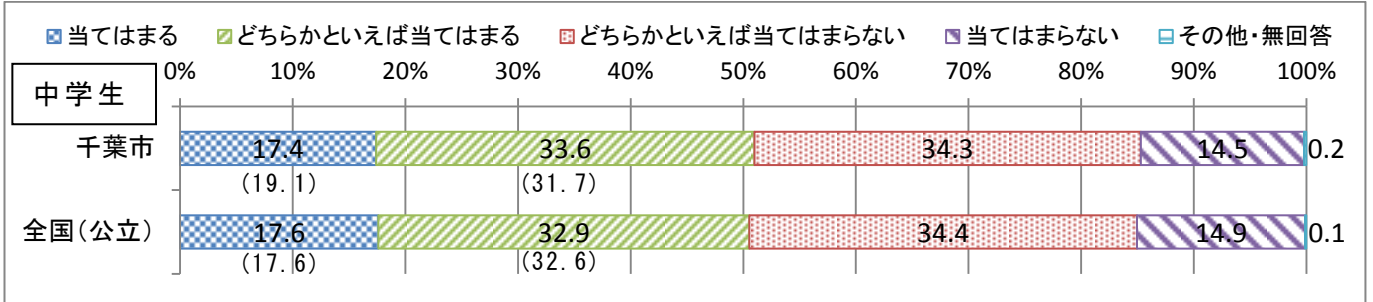


・難しくない、どちらかというとなんか難しくない→36.7%（全国より0.3ポイント低い）

9 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか（小7）（中8）



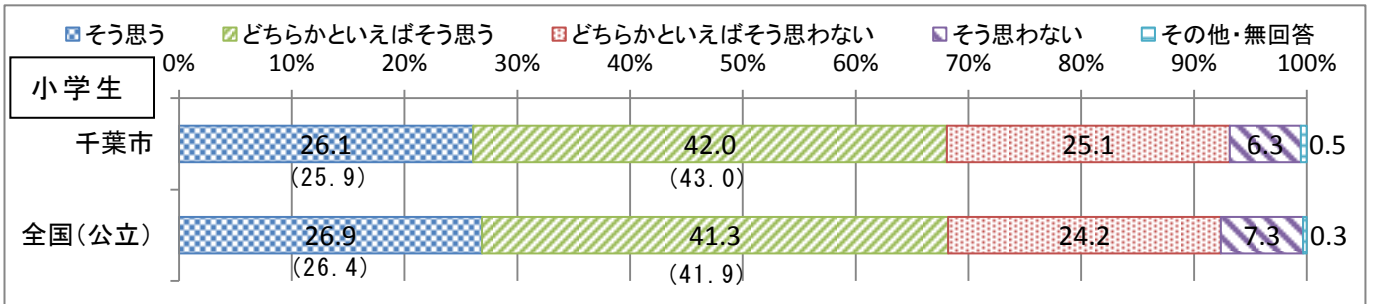
・得意である、どちらかといえば得意である→48.2%（全国より4.0ポイント低い）



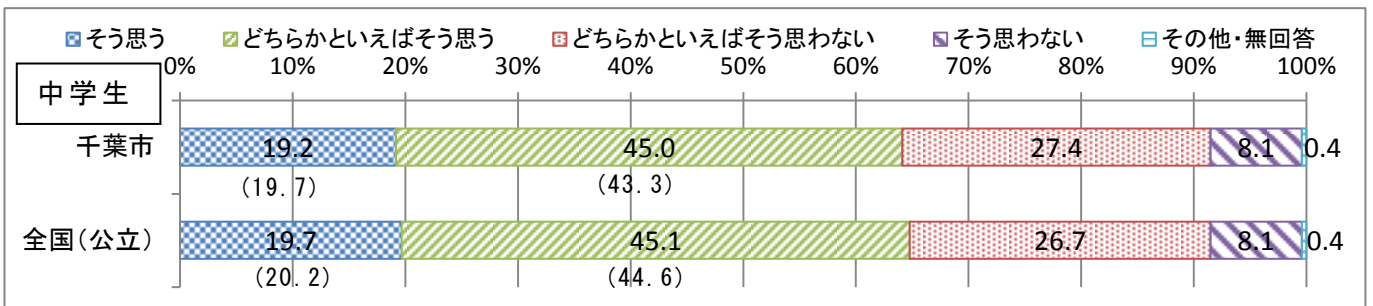
・得意である、どちらかといえば得意である→51.0%（全国より0.5ポイント高い）

10 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか（小68）

生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか（中70）

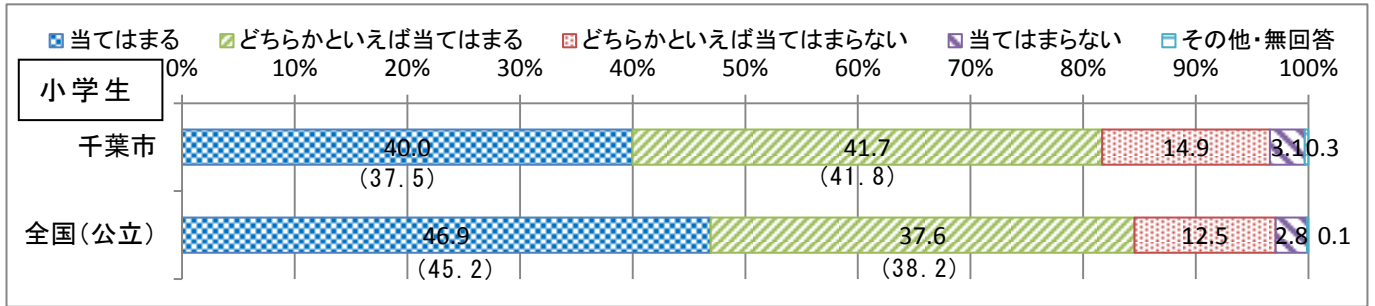


・できている、どちらかといえばできている→68.1%（全国より0.1ポイント低い）

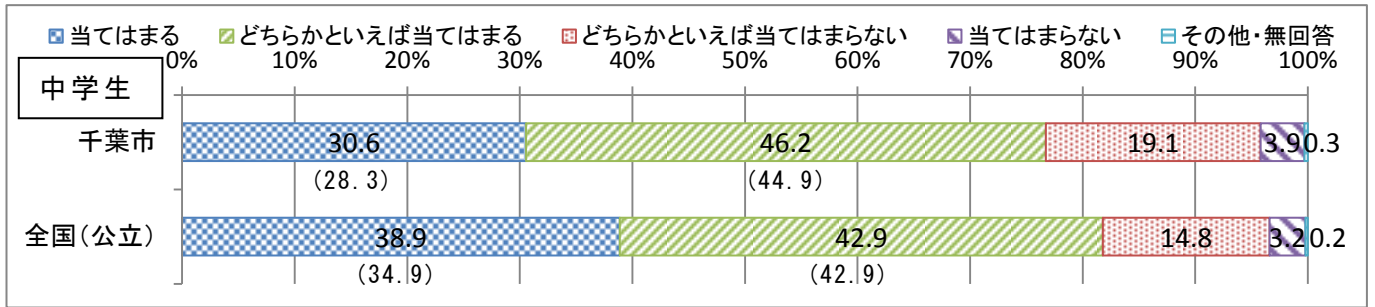


・できている、どちらかといえばできている→64.2%（全国より0.6ポイント低い）

11 5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか（小57）1・2年生のときに受けた授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思いますか（中59）



・行っていた、どちらかといえば行っていた→81.7%（全国より2.8ポイント低い）

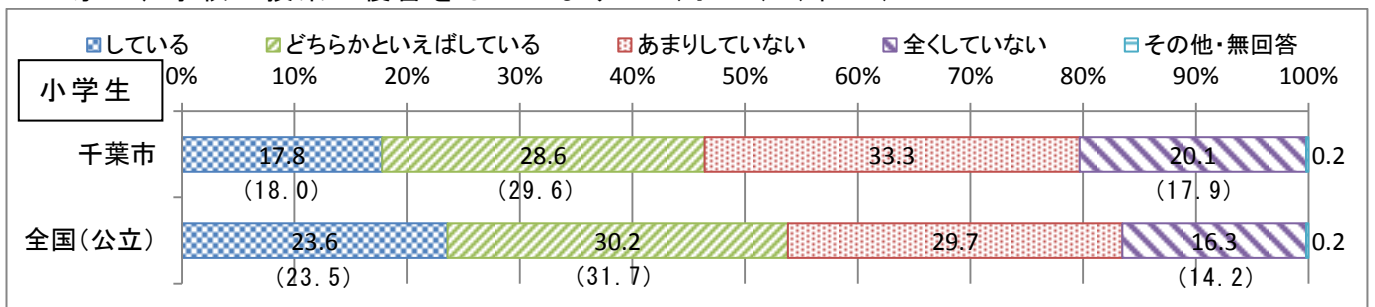


・行っていた、どちらかといえば行っていた→76.8%（全国より5.0ポイント低い）

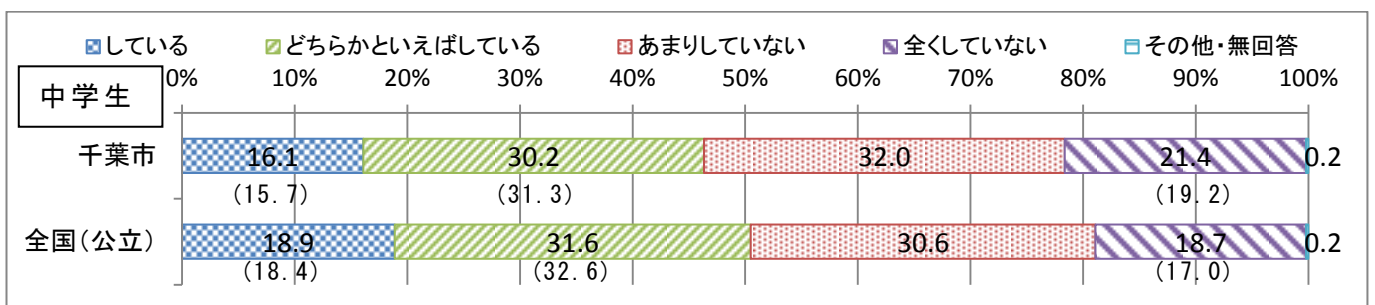
設問7と設問8から、自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりする等、児童生徒が自分の考えを表現することについて、肯定的回答率は全国を上回っているものの、市全体の割合としては半数以下である。設問10では、多くの児童生徒が「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と感じていることが分かる。しかしながら、設問9・11の肯定的回答の割合が全国より低い結果となっていることから、「話し合う活動」において、話し合いの観点が明確でなかったり、自分の考えや意見を、根拠をもって説明できていなかったりする状況が推察される。児童生徒がより思考する「話し合い活動」となるような「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえた授業を積極的に取り入れていく必要がある。

【家庭での学習に関する意識】

12 家で、学校の授業の復習をしていますか（小32）（中34）

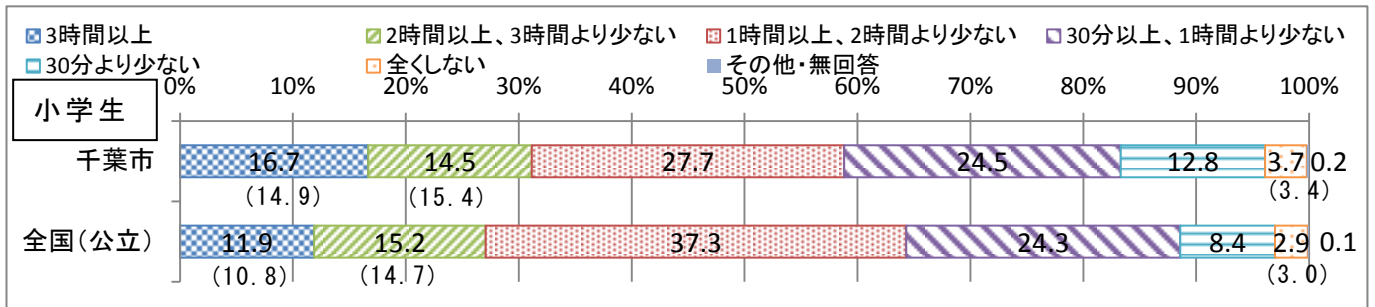


・復習をしている、どちらかといえばしている→46.4%（全国より7.4ポイント低い）

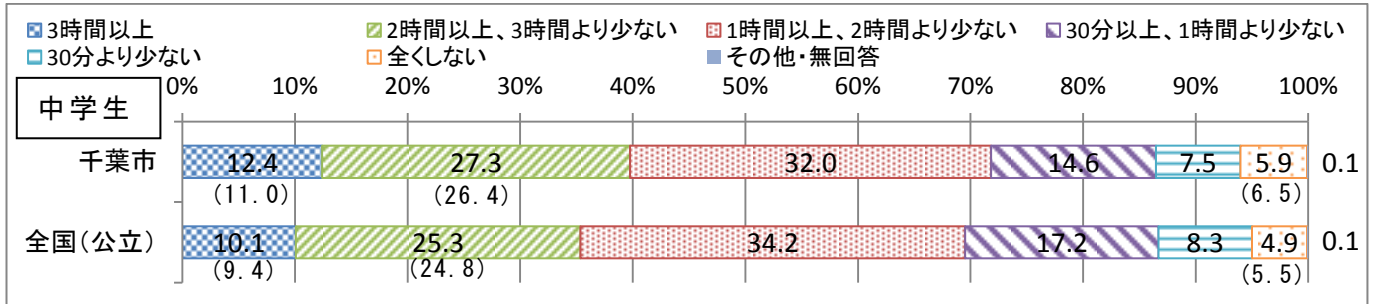


・復習をしている、どちらかといえばしている→46.3%（全国より4.2ポイント低い）

13 学校の授業以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）（小15）（中15）

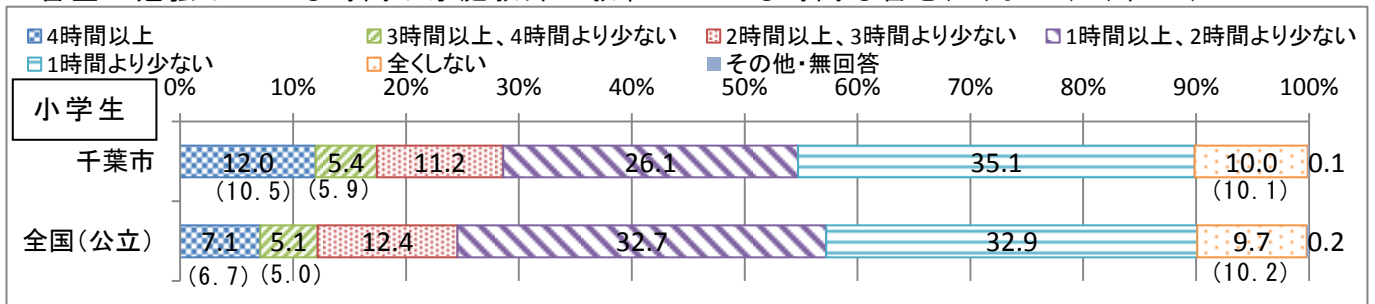


- ・ 1日2時間以上勉強をしている→31.2%（全国より4.1ポイント高い）
- ・ 全くしない→3.7%（全国より0.8ポイント高い）

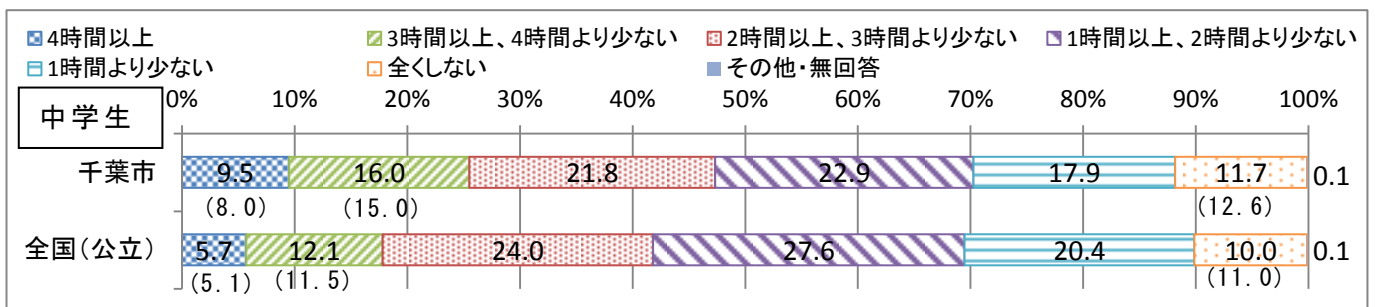


- ・ 1日2時間以上勉強をしている→39.7%（全国より4.3ポイント高い）
- ・ 全くしない→5.9%（全国より1.0ポイント高い）

14 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）（小16）（中16）



- ・ 1日3時間以上勉強をしている→17.4%（全国より5.2ポイント高い）
- ・ 全くしない→10.0%（全国より0.3ポイント高い）

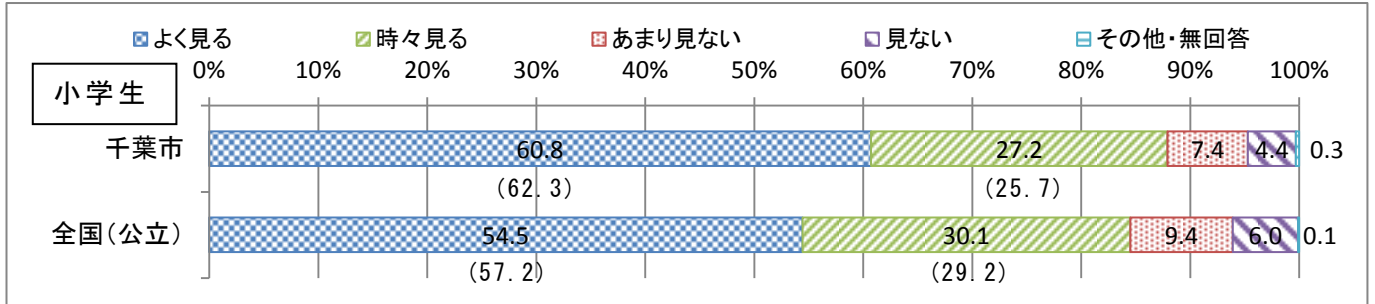


- ・ 1日3時間以上勉強をしている→25.5%（全国より7.7ポイント高い）
- ・ 全くしない→11.7%（全国より1.7ポイント高い）

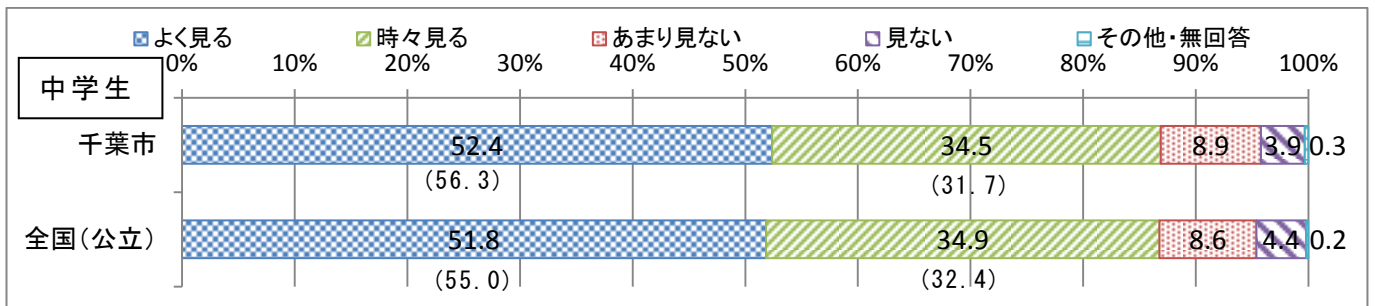
設問12～14より、月～金に2時間以上、学校が休みの日に3時間以上学習している児童生徒の割合は全国よりも高いが、「全くしない」と回答する児童生徒の割合も全国より高い。学校以外の時間に学習する児童生徒と、しない児童生徒の二極化の傾向が見られる。また、授業の復習をしていると回答している児童生徒の割合は、全国と比べて低い。家庭での学習習慣と学力には関連があるため、家庭学習の定着を図る必要がある。

〔家庭での生活に関する意識〕

15 テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか（携帯電話やスマートフォンを使ってインターネットのニュースを見る場合も含む）（小 46）（中 48）

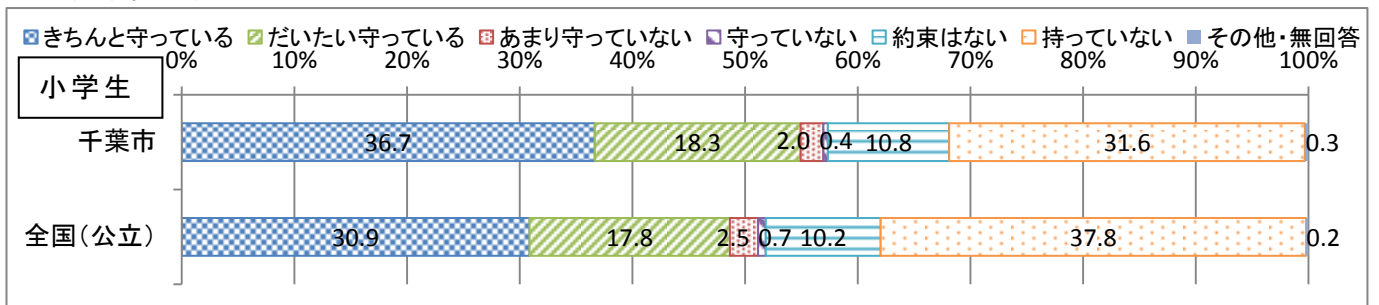


・よく見る→60.8%（全国より6.3ポイント高い）

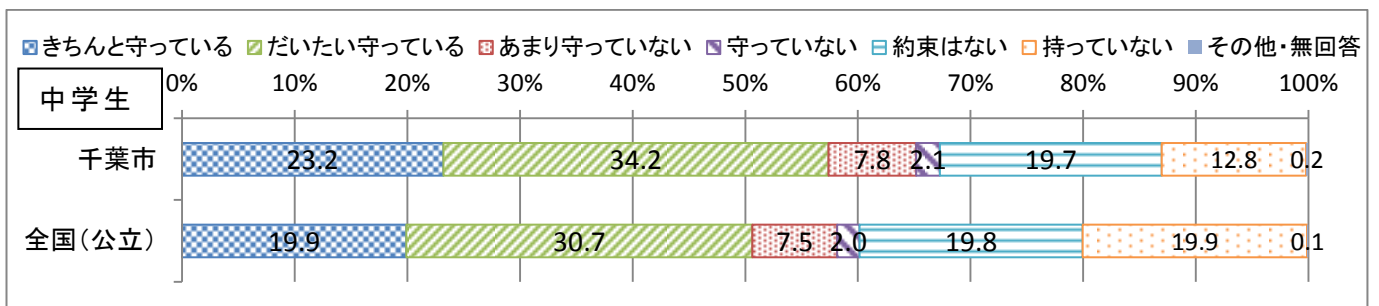


・よく見る→52.4%（全国より0.6ポイント高い）

16 携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか（小 25）（中 27）

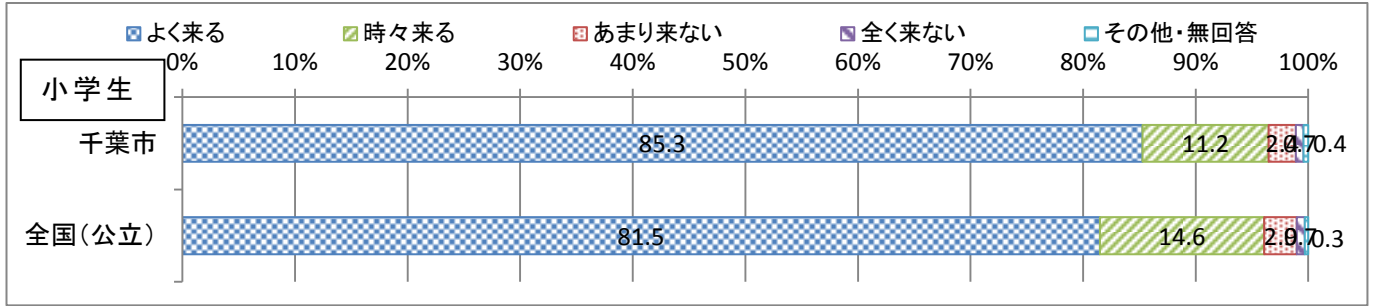


・きちんと守っている、だいたい守っている→55.0%（全国より6.3ポイント高い）

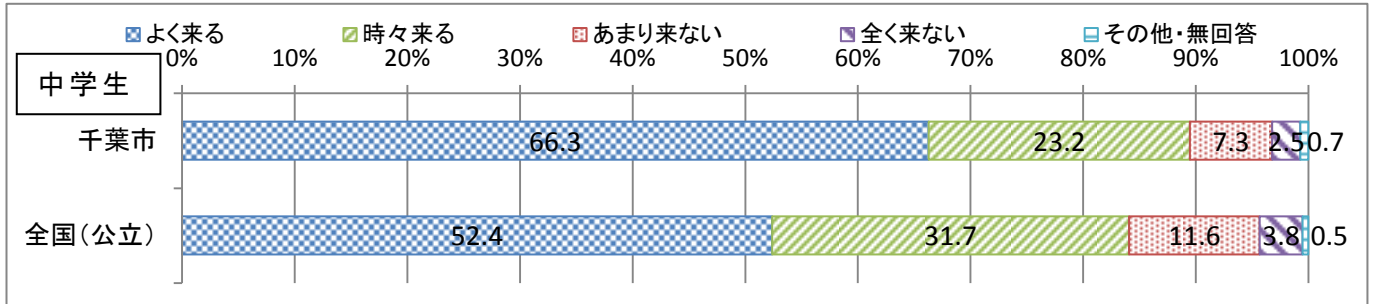


・きちんと守っている、だいたい守っている→57.4%（全国より6.8ポイント高い）

17 家の人(兄弟姉妹を除く)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか(小 28)(中 30)



・よく来る→85.3% (全国より 3.8 ポイント高い)

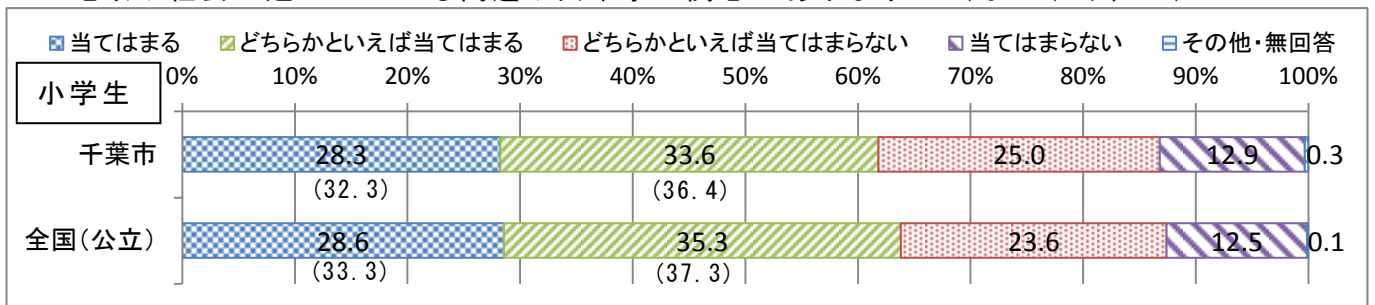


・よく来る→66.3% (全国より 13.9 ポイント高い)

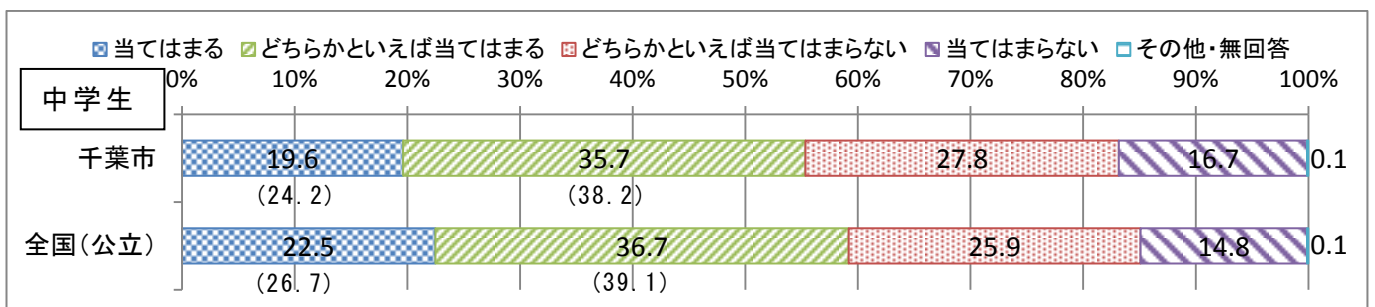
情報の収集については、小学生は、全国に比べ、情報をニュースから得ている児童が多い。中学生は全国と同程度である。児童生徒が社会の状況に興味関心を抱いていることが推察される。設問 16 の携帯電話やスマートフォン使い方のルールを決めて利用している家庭が多いことから、保護者が子供たちに適切にアドバイスしていることが見受けられる。また、設問 17 から本市は全国と比べて、家庭の協力や関心が高いことが分かる。引き続き、家庭と学校が連携して子供たちの成長を支えていくことが大切である。

〔地域との関わりに関する意識〕

18 地域や社会で起きている問題や出来事に関心がありますか(小 41)(中 43)

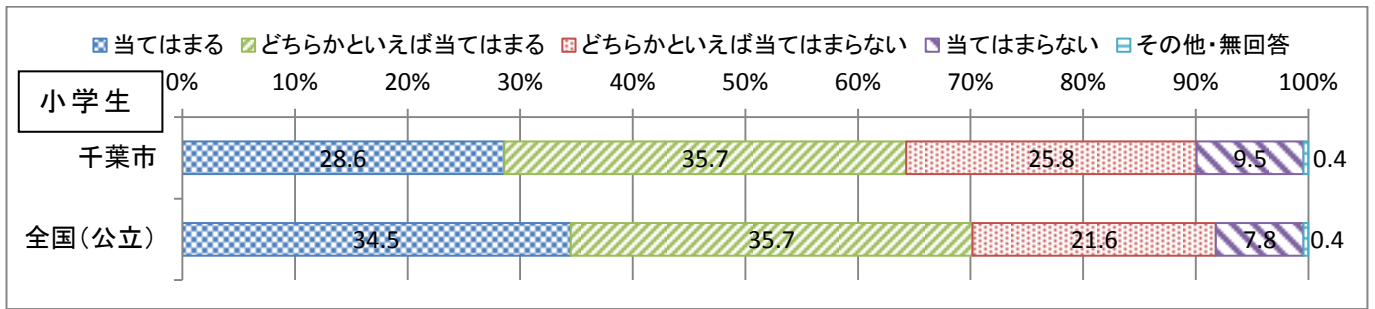


・関心がある、どちらかといえばある→61.9% (全国より 2.0 ポイント低い)

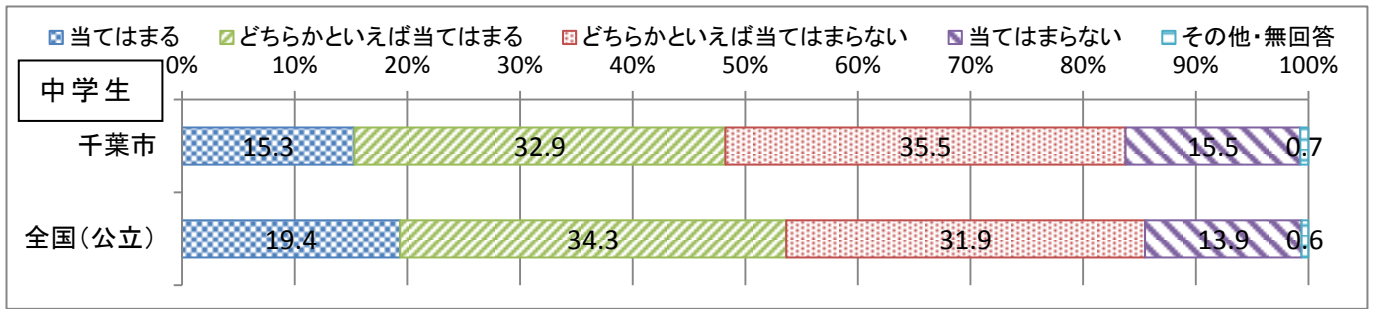


・関心がある、どちらかといえばある→55.3% (全国より 3.9 ポイント低い)

19 5年生まで（1・2年生のとき）に受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか（小 65）（中 67）



・機会があった、どちらかという機会があった→64.3%（全国より5.9ポイント低い）



・当てはまる、どちらかといえば当てはまる→48.2%（全国より5.5ポイント低い）

設問 18 の肯定的回答率は小・中学生ともに全国に比べ低くなっている。また、授業で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりしたと感じた児童生徒の割合も、全国より下回っている。小学校では、教科等の内容に示されている地域に関することを学ぶ機会を生かして、さらに地域と連携した活動の充実を図っていくことが重要である。また、中学校では、教育課程の中でこうした取組の機会を多く設定していく必要がある。児童生徒が地域の施設を利用したり地域の人から学んだりしながら、地域のよさや多くの人と関わり合うことのよさを実感し、社会に関心を持ち視野を広げていくことが大切である。学校・家庭・地域社会の連携をさらに深めていきたい。

4 今後の取組

- (1) 児童生徒の確かな学力の育成・定着を図ることができるように、教員の指導力を一層高め、「わかる授業」を推進していく。そのために以下のような取組を行う。
 - 本市の課題改善に資するデータと、指導改善の方向性やポイント等を示し、研修会や学校訪問等で指導・助言を行う。
 - 各学校における児童生徒の実態や分析結果を基にした校内研修等の充実を図り、授業改善が推進するよう指導する。
- (2) 「教育だよりちば」や Web 等を通して、家庭での児童生徒の望ましい生活習慣の在り方や家庭学習の大切さを広く市民に発信する。